

新宿駅西南口地区開発計画

2022.04.21

新宿区ユニバーサルデザインまちづくり審議会資料

【計画内容について】

01.新宿グランドターミナルの再編	1
02.計画概要	3
03.現状の課題	6
04.まちづくりに向けた方策	10
05.参考資料（上位計画）	16

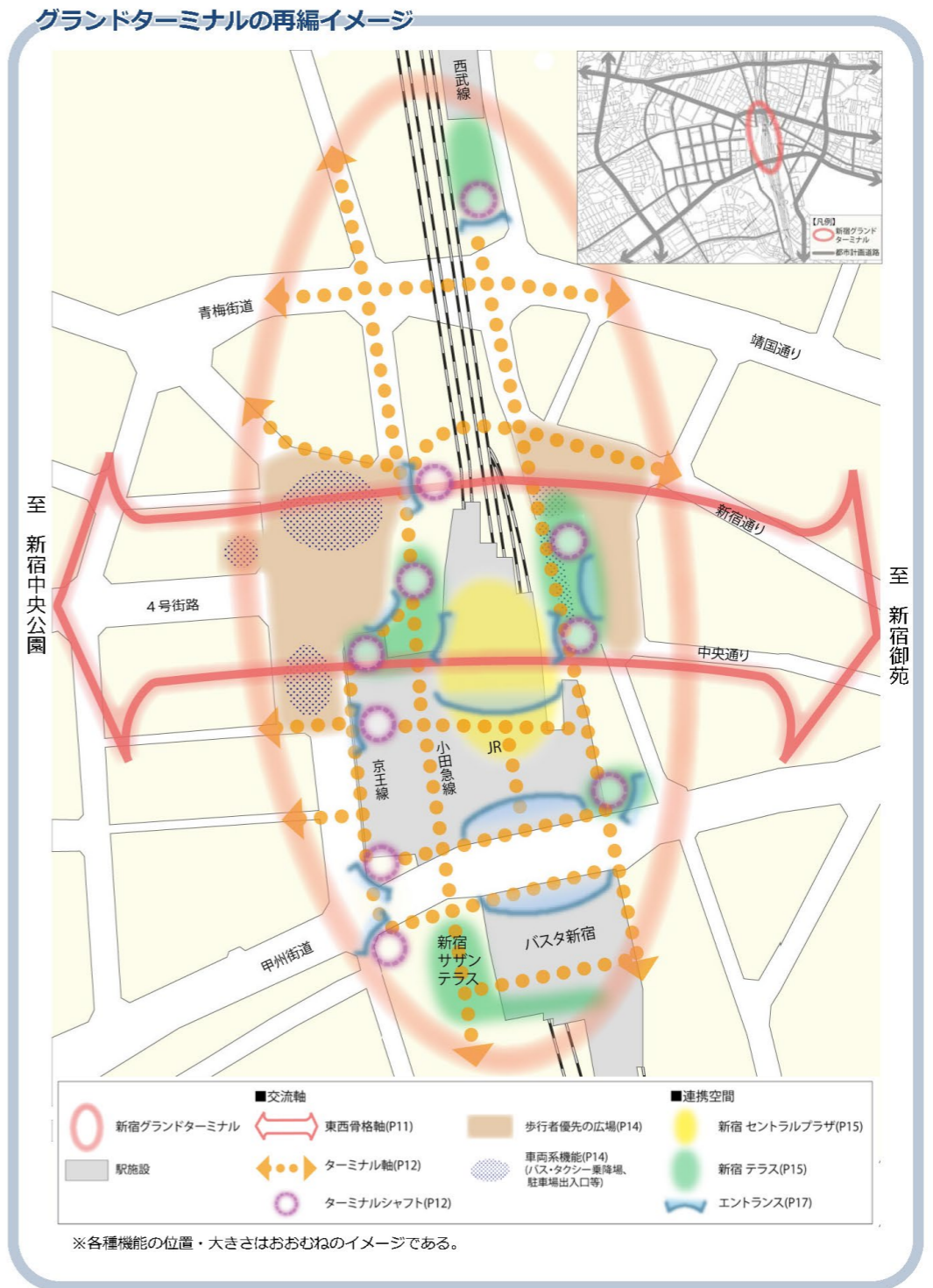
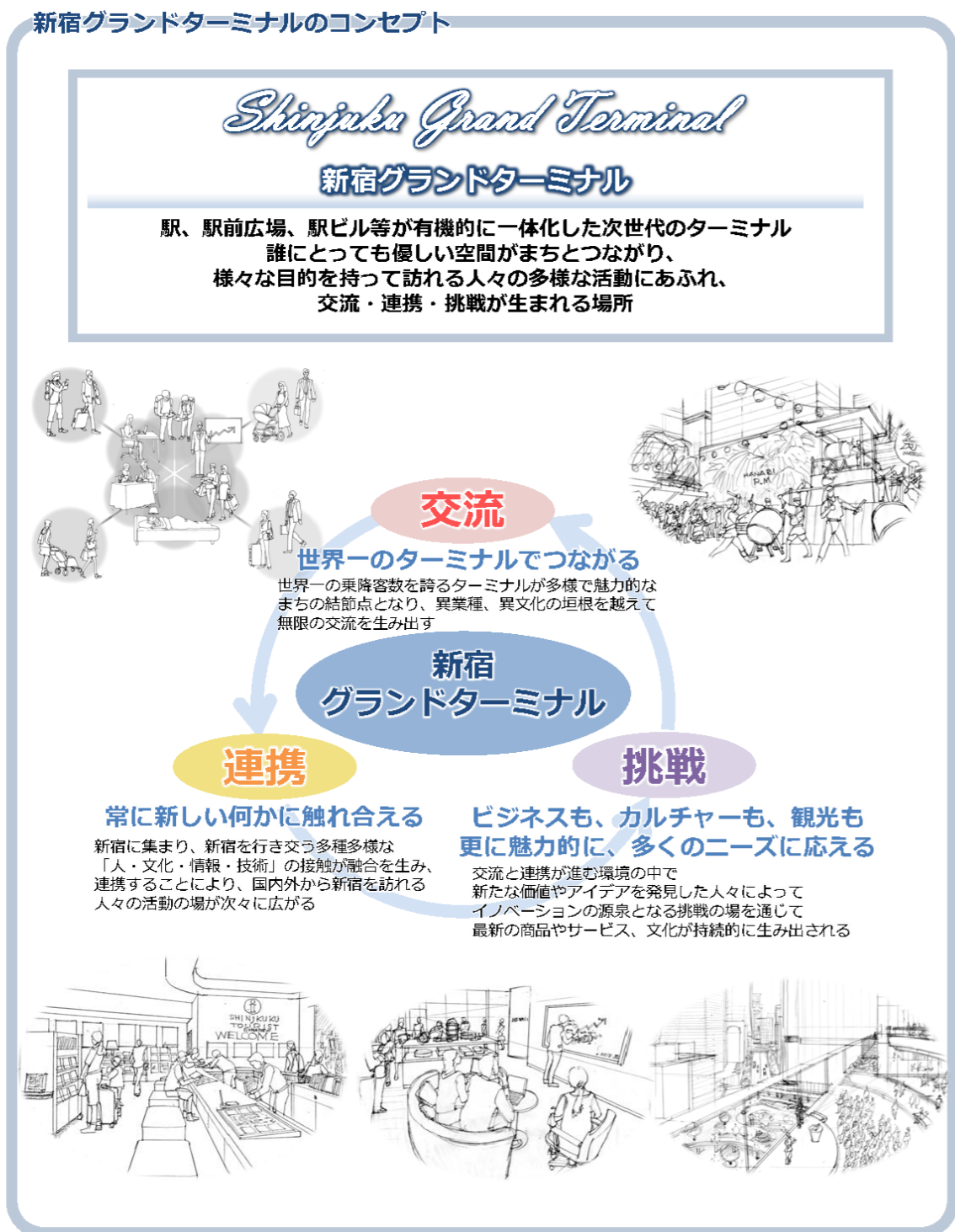
01.新宿グランドターミナルの再編

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

新宿の拠点再整備に向けた取組（新宿グランドターミナルの再編）

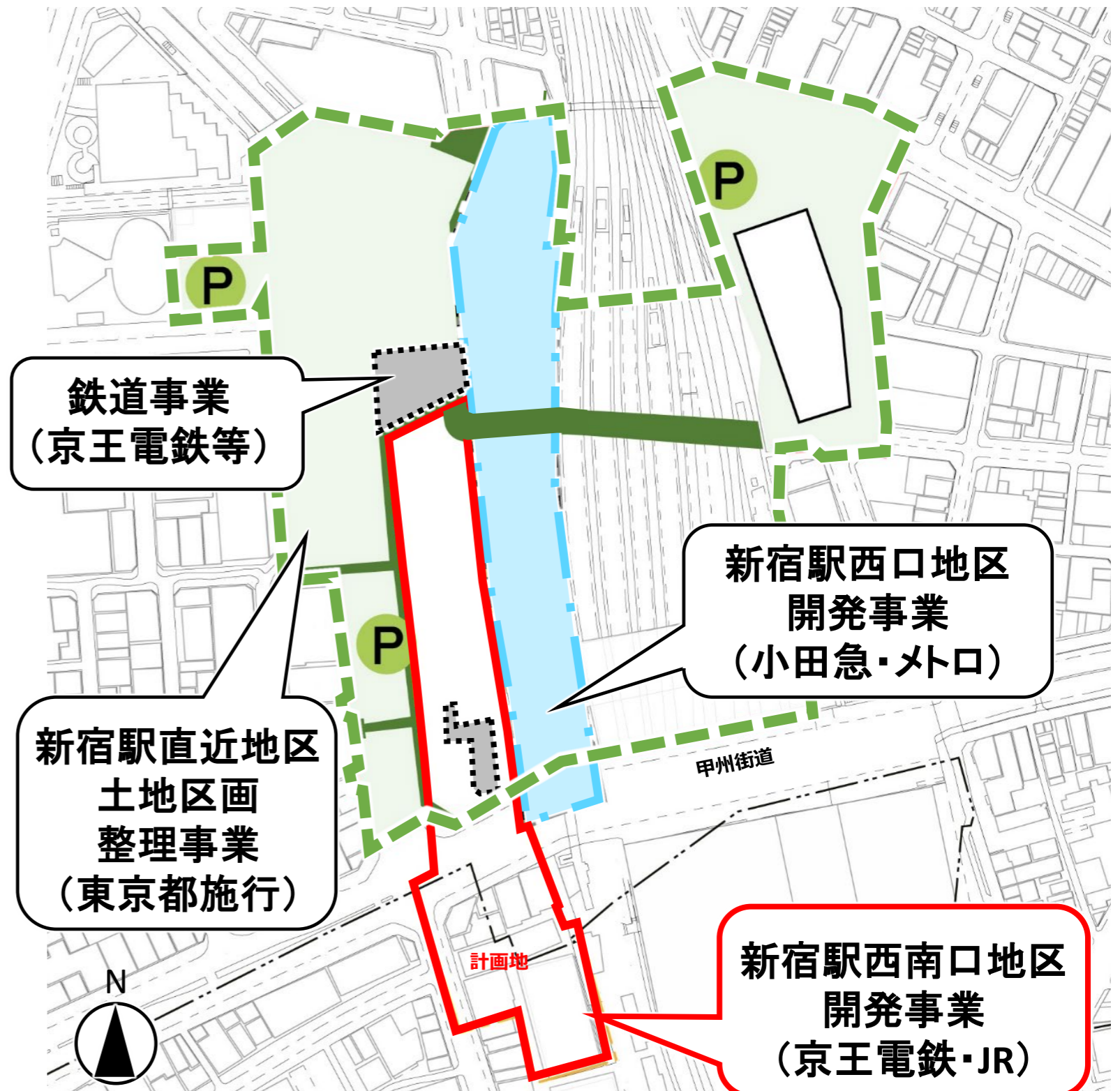
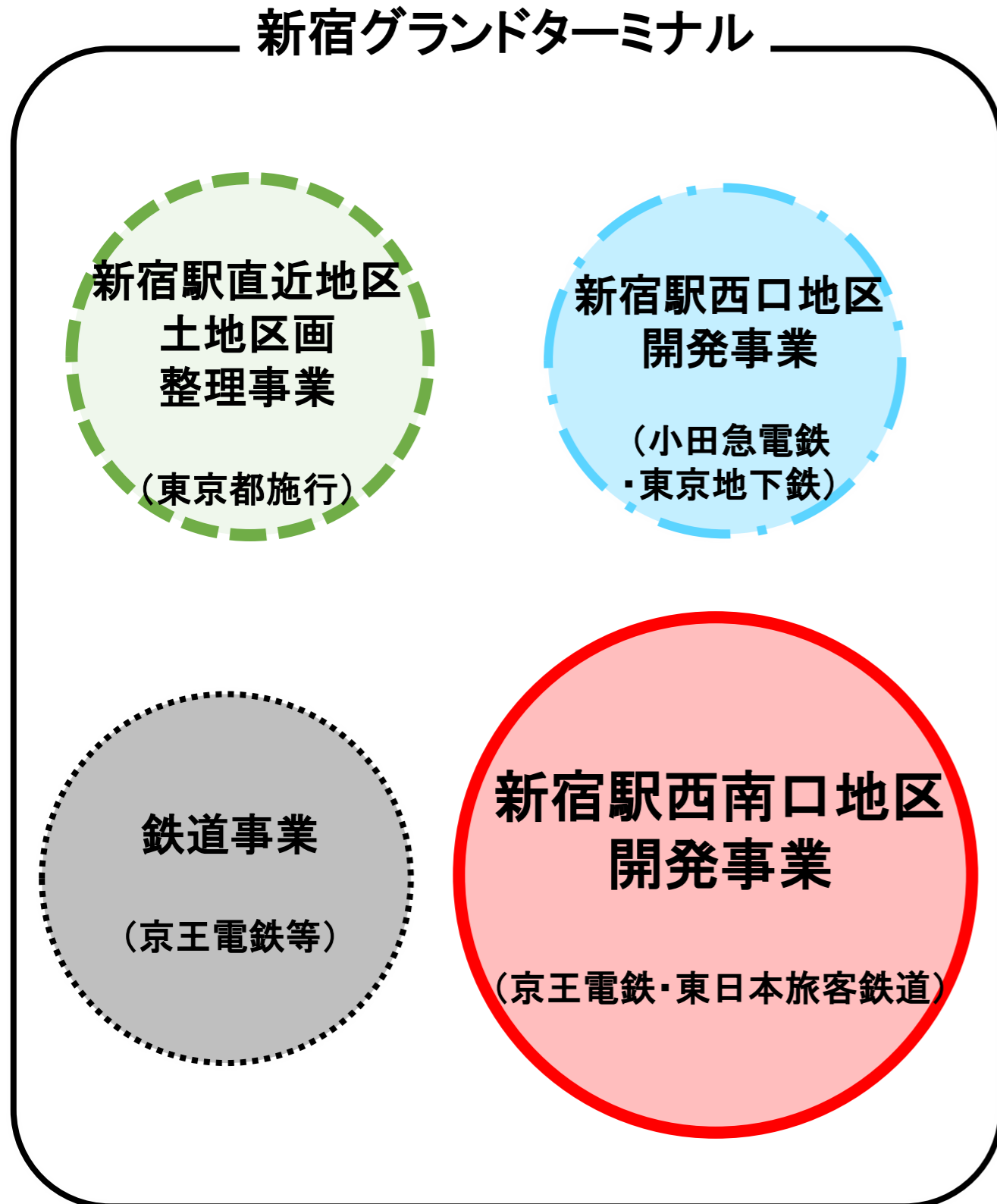
- 更新期を迎えた駅ビルの建替えを契機として、敷地の整序を行いながら、**駅、駅前広場、駅ビル等を一体的に再編**
- 土地区画整理事業での基盤整備と、新宿グランドターミナルの機能更新を、**官民連携で一体的に推進**

東京都 新宿区 新宿の拠点再整備方針～新宿グランドターミナルの一体的な再編～（H30）



新宿グランドターミナルの実現に向けた整備（複数事業の連携）

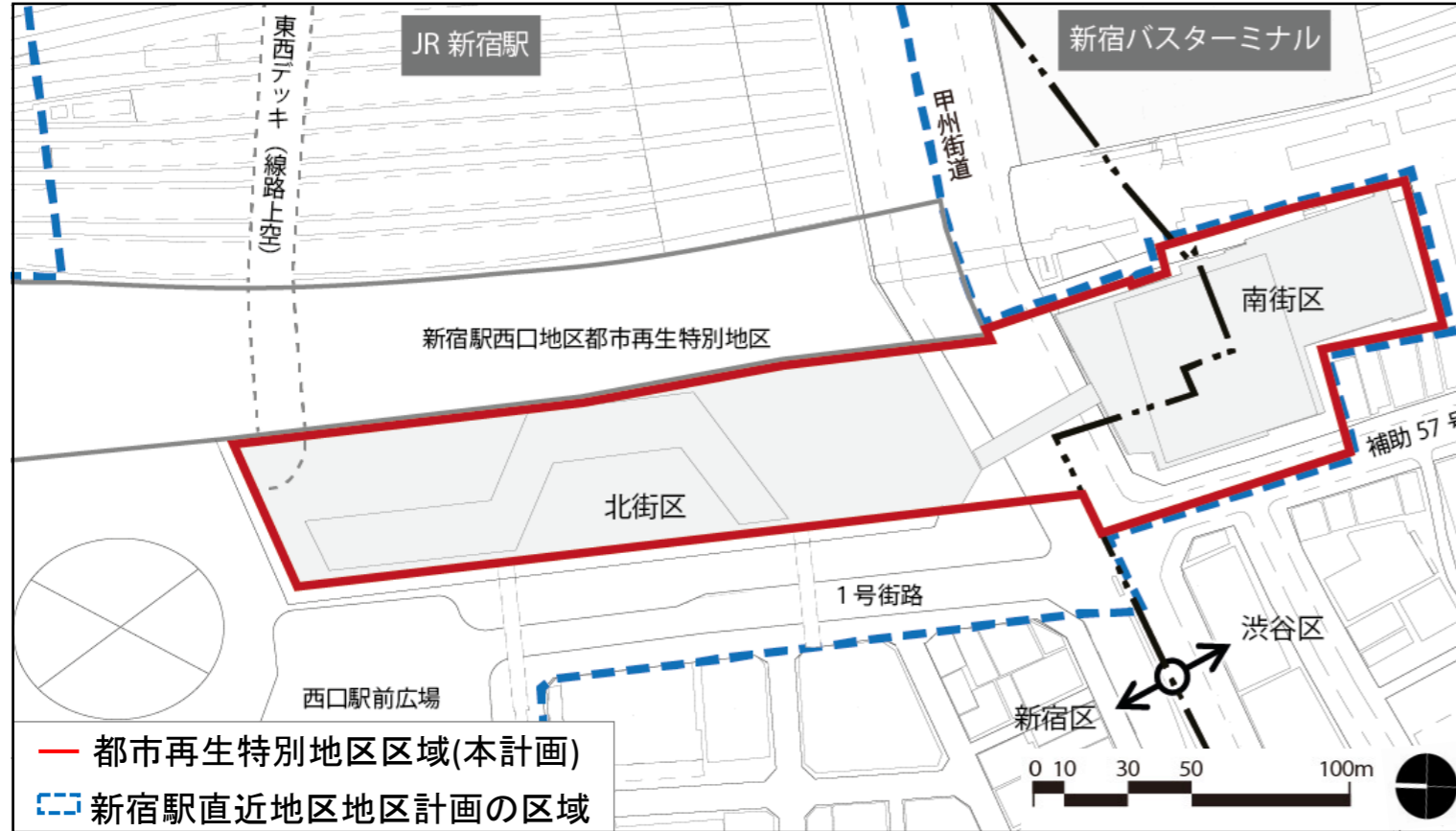
○異なる事業主体による複数の事業が連携し、**人中心のまち**を目指します。



02.計画概要

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

■ 配置図

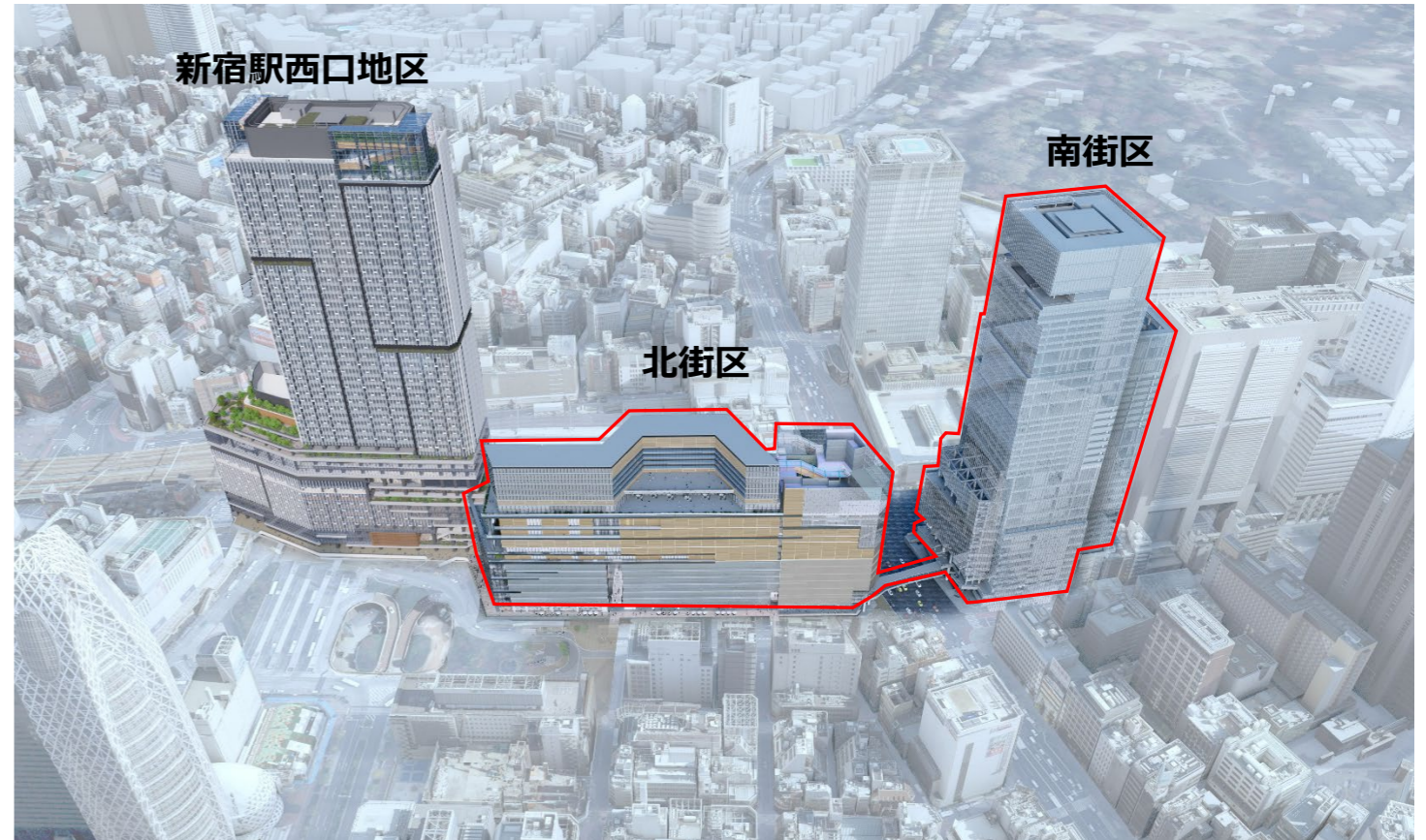


■ 計画諸元

計画地	東京都新宿区西新宿一丁目及び渋谷区代々木二丁目各地内			
街区別諸元	全体	北街区	南街区	
計画容積率	約1,540%	約1,250%	約2,000%	
敷地面積	約16,300㎡	約10,000㎡	約6,300㎡	
延べ面積 (容積対象床面積)	約291,500㎡ (約251,000㎡)	約141,500㎡ (約125,000㎡)	約150,000㎡ (約126,000㎡)	
主要用途	—	店舗、宿泊施設、 駐車場 等	店舗、事務所、 宿泊施設、駐車場 等	
階数/最高高さ (高さ基準点)		地上19階、地下3階/ GL+110m (GL=T.P.+41.0m)	地上37階、地下6階/ GL+225m (GL=T.P.+41.0m)	
工期 (予定)	建物	2023年度～2040年代	～2040年代※	2023年度～2028年度

※ 北街区については、南街区竣工後、着工予定。新宿駅直近土地区画整理事業（事業期間：2021年度～2046年度）等との調整により、工期の詳細は今後決定する。

■ イメージパース（西側より計画建物を望む）



■ イメージパース（西口駅前広場より計画建物を望む）



本計画のスケジュールと審議について

- **現在は事業の骨格の部分を検討する都市計画の段階**であるので、
本日は今後の詳細部分の設計に向けて検討すべき事項として、様々な観点からご意見を頂戴したいと考えております。
- 新宿区ユニバーサルデザイン条例による届出対象である北街区について、**実施設計の段階においてもユニバーサルデザインの考え方を踏まえ詳細な検討**をいたします。

		～2021年度	2022年度	2023年度～2028年度	2040年代	
新宿駅直近地区 土地区画整理						2046年度事業完了
都市再生特別地区 (国家戦略特区)		都市計画決定告示 (想定)				
ユニバーサルデザイン		第1回UD審議会4/21 ・都市計画に向けた骨格提案		第2回UD審議会 (時期要調整) ・主に北街区について設計の深度化に伴い内容説明		
設計・ 施工	北街区 新宿区ユニバーサルデザイン条例 申請対象 (想定)	設計			工事	2040年代 北街区竣工
	南街区 東京都福祉のまちづくり条例申請対象 (想定)	設計		工事	2028年度 南街区竣工	

02.計画概要

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

1 新宿グランドターミナルの実現に向けた基盤整備

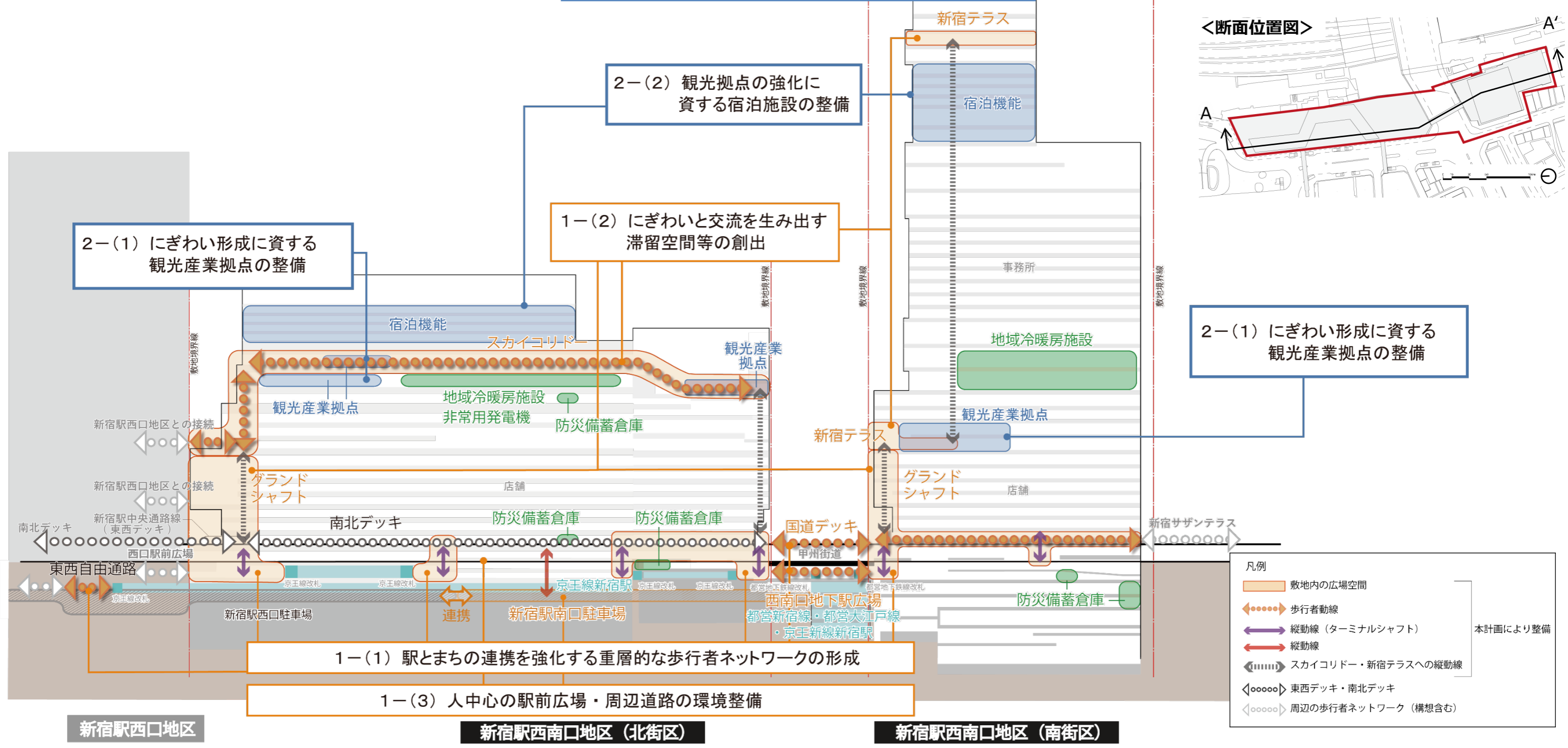
- (1) 駅とまちの連携を強化する重層的な歩行者ネットワークの形成
- (2) にぎわいと交流を生み出す滞留空間等の創出
- (3) 人中心の駅前広場・周辺道路の環境整備

2 国際競争力を高める都市機能の導入

- (1) にぎわい形成に資する観光産業拠点の整備
- (2) 観光拠点の強化に資する宿泊施設の整備

3 環境負荷低減と防災対応力強化

- (1) 環境負荷低減に向けた取組
- (2) 地域の防災対応力強化に向けた取組



ユニバーサルデザインまちづくりガイドライン

新宿区 ユニバーサルデザインまちづくりガイドライン (2011.3)

■新宿区の「ひと」の多様性

高齢者	視覚障害者 (色覚障害*)	乳幼児連れ
肢体不自由者 (車いす使用者)	聴覚・言語障害者	子ども
肢体不自由者 (車いす以外)	知的障害者 精神障害者 発達障害者 高次脳機能障害者	外国人
内部障害者 <small>(心臓、じん臓、腎臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸機能の障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害を持つ人の総称)</small>	観光客 <small>(土地に不慣れであったり、重い荷物を持って移動するなど)</small>	その他
視覚障害者 (全盲)	妊娠中の人	

■基本目標

基本目標1 誰もが自由に歩ける 都市空間づくり	基本目標2 誰もが快適に過ごせる 都市空間づくり
基本目標3 誰もが安心できる 都市空間づくり	基本目標4 誰もが楽しめる 都市空間づくり
基本目標5 誰にでもわかりやすい 都市空間づくり	

「多様」な方の利用を想定し
施設の検討が必要

新宿駅西南口地区及びその周辺における課題

主にUDガイドラインの基本目標1,2の課題に該当する内容

- 課題① 駅周辺での移動経路が複雑で分かりにくく、混雑しているなど歩行空間も十分でない
- 課題② 駅の各出入口や地上と地下の出入口が分かりにくく、段差があるなどバリアフリー化がなされていない
- 課題③ 高齢者・障がい者・子連れ・妊娠中の方等がゆっくり休憩できる場が少なく、またみどりも少ない
- 課題④ 道路において歩行者のための空間が歩車交錯や自動車や駐輪などによって圧迫されている

主にUDガイドラインの基本目標3,4,5の課題に該当する内容

- 課題⑤ 災害時の避難場所や避難誘導のための情報の充実が必要
- 課題⑥ 誰もが来街時の安心して使えるトイレや授乳施設が必要
- 課題⑦ 誰もが分かりやすい案内(サイン)や誘導ブロック等が必要

まちの現状と課題

※新宿区ユニバーサルまちづくりガイドライン（2011.3）より抜粋

※主に赤字が関連する課題



新宿駅直近地区における課題

※左記の抜粋を整理

目標・取組	まちの課題
基本目標1 誰もが自由に歩ける都市空間づくり	取組み 1 駅周辺での移動の連続性を確保し、自由に歩けるようにする ○駅周辺のバリアフリー経路は、迂回が必要であったり、時間帯によって利用できない場合があります。 ○階段や大きな段差で移動に制約がある人にとっては、使いにくい場合があります。 ○駅の各出入口間の移動経路が複雑で、わかりにくいことがあります。
	取組み 2 ささまざまな歩行者のために十分な空間を確保し、ゆったりと歩けるようにする ○多くの人が安全で快適に歩くための歩行空間が十分ではない場所があります。 ○地下への出入口や放置自転車によって歩道が狭くなり混雑し、歩きにくい場所があります。 ○道路空間の多くが、自動車の交通のための空間として使われています。
	取組み 3 上下階の移動や地下街などの立体的な都市空間の移動を、負担が少なくスムーズにできるようにする ○地下街内の移動経路は、地下と地上を結ぶ経路に多くのバリアがあります。 ○地下通路が連続していなかったり、管理上、通行時間に制限があり、ネットワーク化が十分ではありません。 ○初めて訪れる来街者や外国人観光客などの慣れない人にとっては、地下と地上の出入口や位置などがわかりにくくなっています。
	取組み 4 道路から建築物などに不自由なく入れるようにする ○道路と建築物の間に段差が生じ、高齢者や障害者等のアクセスの妨げとなっている場所があります。 ○視覚障害者の移動を補助する誘導用ブロックが、道路と施設間で連続していない箇所があります。
	取組み 5 自動車による交通負荷を軽減し、さまざまな人々が安全に歩けるようにする ○自動車の路上駐車や自動二輪車の路上駐輪によって、歩行者のための空間が圧迫されています。 ○駐車場の有効活用や荷さばきの効率化が図れていないため、路上駐車等が多くなっています。
基本目標2 誰もが快適に過ごせる都市空間づくり	取組み 6 まちを美しく保ち、みどり豊かで快適に利用できる空間を形成する ○まちのみどりが減少しています。 ○薄暗い場所や美観が損なわれている場所があり、安心感や魅力の低下を招いています。
	取組み 7 ささまざまな人々に配慮した快適な歩行空間を確保する ○歩道には、移動の際に身体的負担が大きい高齢者や障がい者、妊娠中の人、子ども連れの人などの歩行者が、一休みできる休憩スペースが少ない状況です。 ○歩行者にとって歩きにくい、幅の狭い道路が残っています。
	取組み 8 混雑する駅やバスターミナルでも、快適に利用できる空間を確保する ○駅前には混雑していて、さまざまな人が自由に移動したり、ゆっくりと待ち合わせや休憩ができる空間が少ない状況です。
基本目標3 誰もが安心できる都市空間づくり	取組み 9 都市空間を活用・改善して、まちの防災力を高める ○駅周辺や地下街では、建築物の耐震性向上や避難場所の確保、災害時の避難誘導のための情報の充実などが必要です。 ○住宅地などの生活空間では、災害に対する道路や建築物の安全面での対策が必要です。 ○緊急輸送道路沿いの建築物の耐震化が必要です。
	取組み 10 歩車分離されていない道路などでは、自動車の交通を制限し、歩行者が安心して歩けるようにする ○歩道と車道が分離されていない道路では、歩行者の安全が十分に確保されていません。 ○人通りが多く歩道が狭い道路では、歩行者と自動車・自転車が交錯し歩きにくくなっています。
	取組み 11 公共施設と民間施設の連携により、まちを歩くことの安心感を高める ○高齢者・障害者、子ども連れの人々が外出時に安心して使えるトイレや授乳施設が把握しにくい状況です。 ○トイレの配置や案内など利用しやすさへの配慮が十分ではありません。 ○地上と地下街などの上下の移動の負担を軽減するための、エレベーターなどが十分ではありません。
	取組み 12 防犯に配慮した都市空間の改善を行い、まちの防犯力を高める ○さまざまな来街者や観光客が訪れる繁華街では、安心してまちを楽しむための対策が求められています。 ○住宅地などの生活空間では、ハード・ソフト面から犯罪に対する安全性の向上が課題となっています。
基本目標4 誰もが楽しめる都市空間づくり	取組み 13 歴史や文化、個性など、まちの魅力に容易にアクセスできる配慮をする ○魅力あるまちや施設にアクセスするのに、歩行空間や建築物にバリアがあります。 ○安心してまちを楽しむための案内誘導や、トイレ、授乳施設などの情報が少ない状況です。
	取組み 14 道路や広場などの公共的な空間を活用して、さまざまな人々の交流を創出する ○広場などの交流スペースが少ない状況です。また、高齢者や障害者、子ども連れの人などが快適に休憩するためのベンチなどが十分ではありません。 ○建築物周辺のオープンスペースが有効に活用されていません。
基本目標5 誰にでもわかりやすい都市空間づくり	取組み 15 新宿のまちをわかりやすく伝える情報提供を行う ○新宿駅周辺は都市構造が複雑で、慣れない来街者にはわかりにくい案内表示になっています。 ○地下街や道路上で災害時の避難誘導に備えた情報が少ない状況です。 ○案内が設置されていても、落書きや駐輪など案内・誘導の機能を損ねている場合があります。
	取組み 16 利用者のさまざまな特性に配慮して、わかりやすい情報提供を行う ○高齢者や障害者にわかりやすい情報提供が少ない状況です。 ○子どもを連れた外出に役立つ情報が少ない状況です。 ○外国人がまちを楽しめる情報が少ない状況です。

主に基本目標1・2の課題に該当する内容

課題① 駅周辺での移動経路が複雑で分かりにくく、混雑しているなど歩行空間も十分でない

課題② 駅の各出入口や地上と地下の出入口が分かりにくく、段差があるなどバリアフリー化がなされていない

課題③ 高齢者・障がい者・子連れ・妊娠中の方等がゆっくり休憩できる場が少なく、またみどりも少ない

課題④ 道路において歩行者のための空間が歩車交錯や自動車や駐輪などによって圧迫されている

主に基本目標3・4・5の課題に該当する内容

課題⑤ 災害時の避難場所や避難誘導のための情報の充実が必要

課題⑥ 誰もが来街時に安心して使えるトイレや授乳施設が必要

課題⑦ 誰もが分かりやすい案内(サイン)や誘導ブロック等が必要

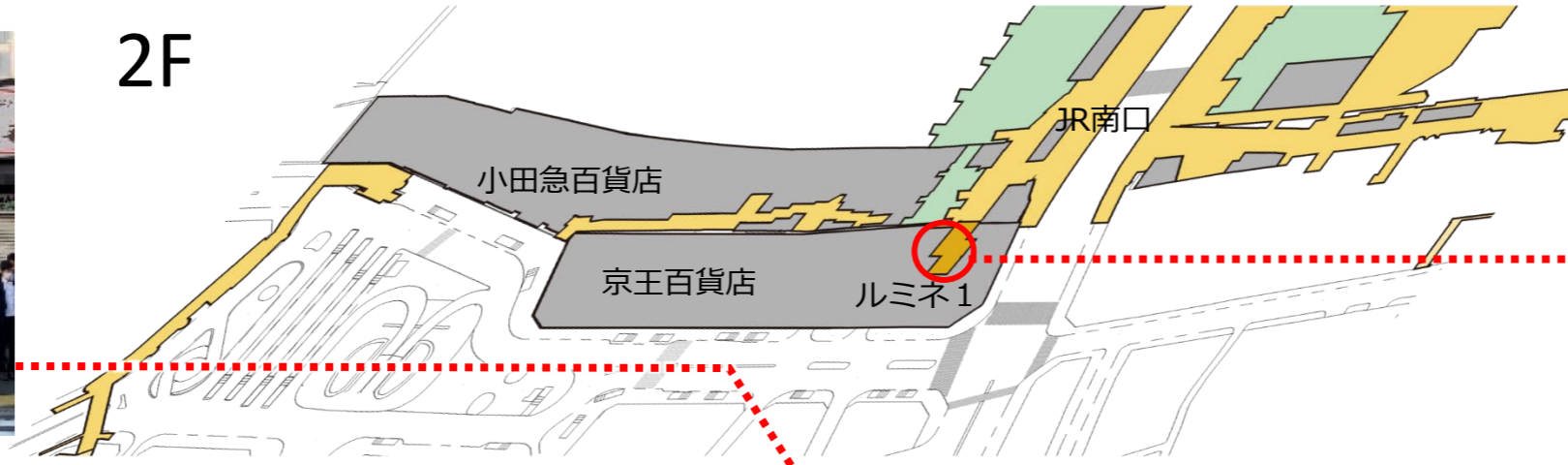
03.現状の課題（本地区）

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

- 課題①： 駅周辺での移動経路が複雑で分かりにくく、混雑しているなど歩行空間も十分でない
- 課題②： 駅の各出入口や地上と地下の出入口が分かりにくく、段差があるなどバリアフリー化がなされていない



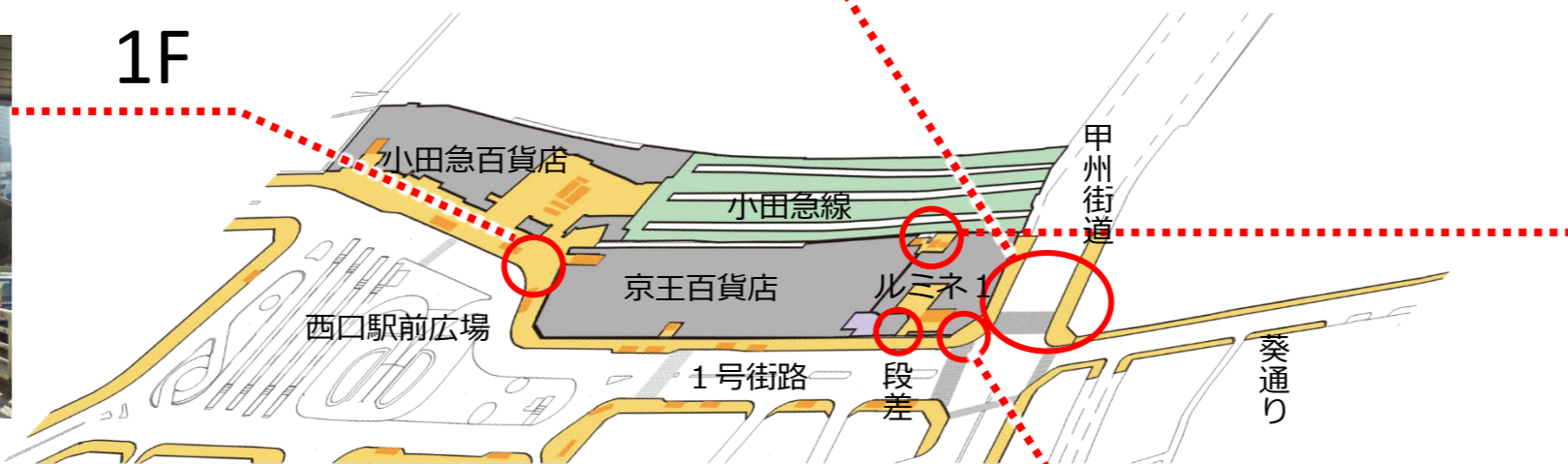
西口一丁目交差点周辺の混雑・甲州街道の地形による高低差



都営新宿線・京王新線から小田急線南口・JR線南口への段差のある乗換動線



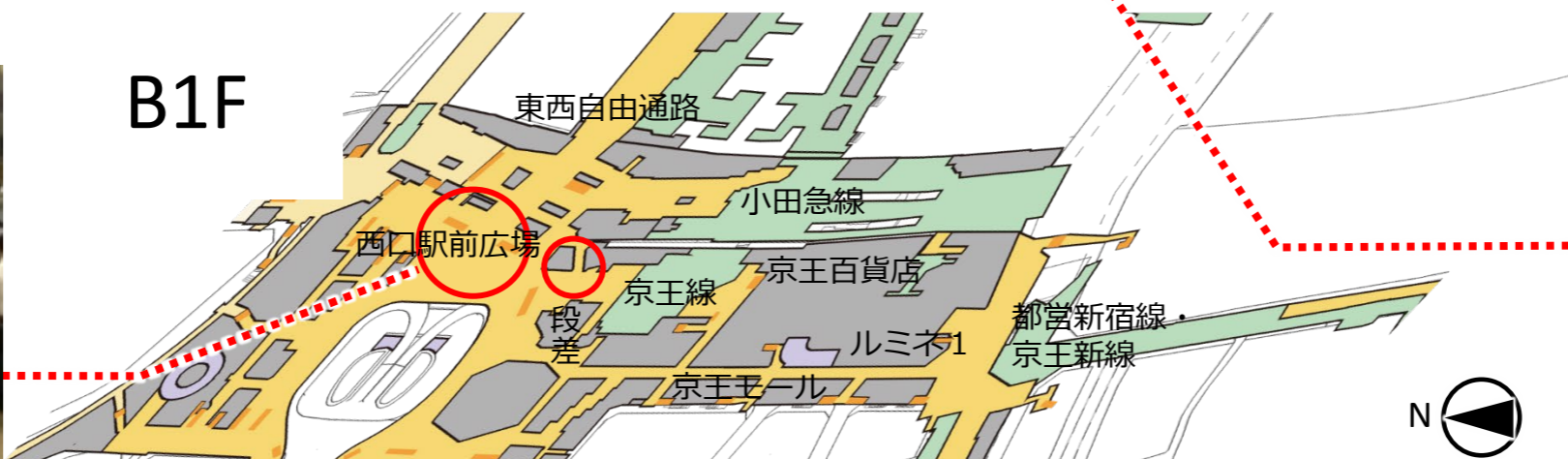
初めてくる旅行者や外国人等にとって西口駅前広場側において駅や地下への出入口が分かりにくい



京王線ルミネ口から小田急線南口・JR線南口への階段のみによる乗換動線



東西自由通路と京王線・丸の内線方面の乗換における人々の交錯



初めてくる旅行者や外国人等にとって甲州街道側において駅や地下への出入口が分かりにくい

03.現状の課題（本地区）

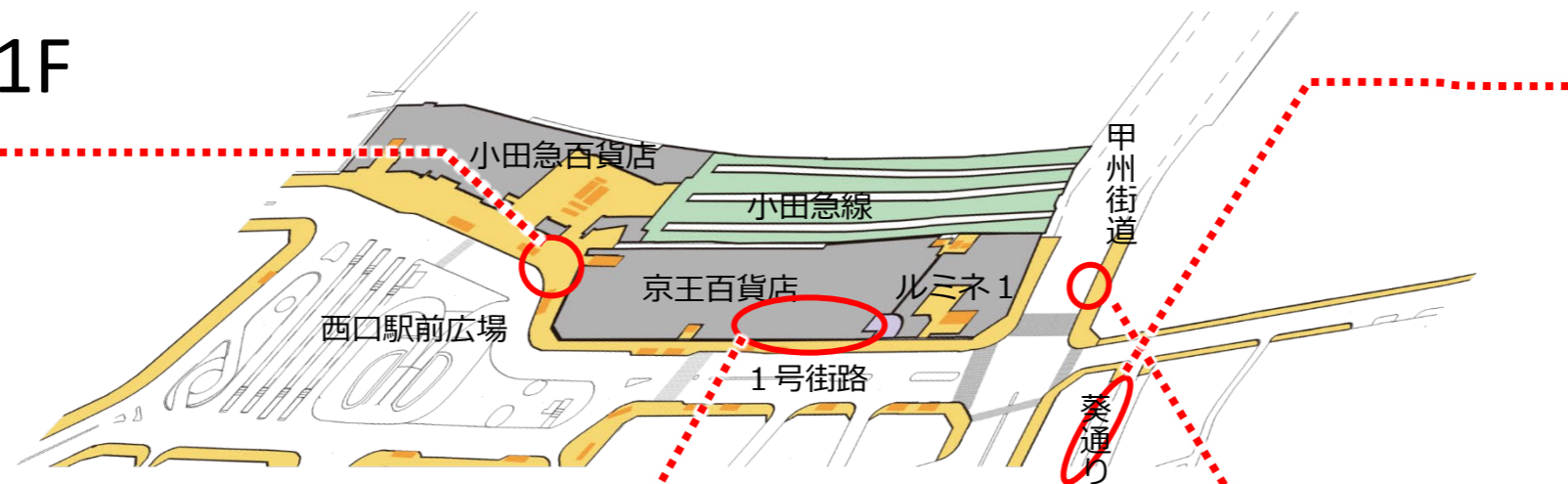
※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

- 課題③ : 高齢者・障がい者・子連れ・妊娠中の方等がゆっくり休憩できる場が少なく、またみどりも少ない
- 課題④ : 道路において歩行者のための空間が歩車交錯や自動車や駐輪などによって圧迫されている
- 課題⑤ : 災害時の避難場所や避難誘導のための情報の充実が必要
- 課題⑥ : 誰もが来街時の安心して使えるトイレや授乳施設が必要
- 課題⑦ : 誰もが分かりやすい案内(サイン)や誘導ブロック等が必要



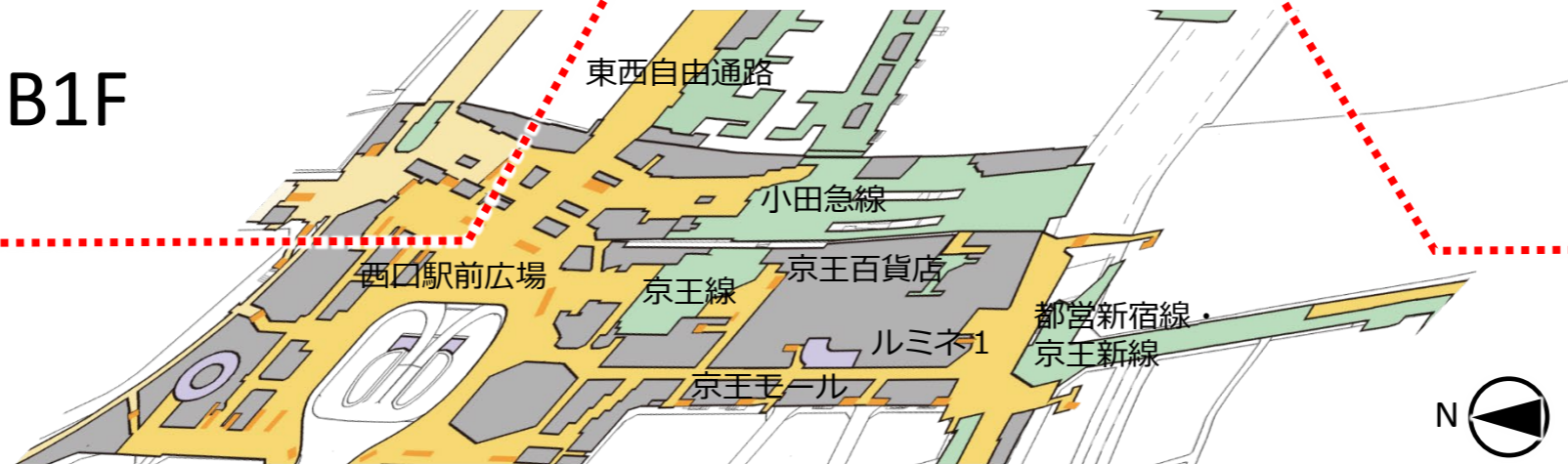
西口駅前広場に面する歩道部分は滞留できる空間になっていない

1F

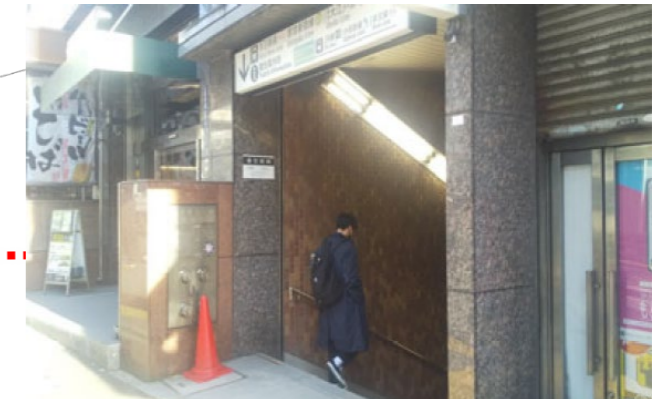


葵通りにおける駐輪や駐バイクなどによる歩行者空間の圧迫

B1F



1号街路における歩車の交錯



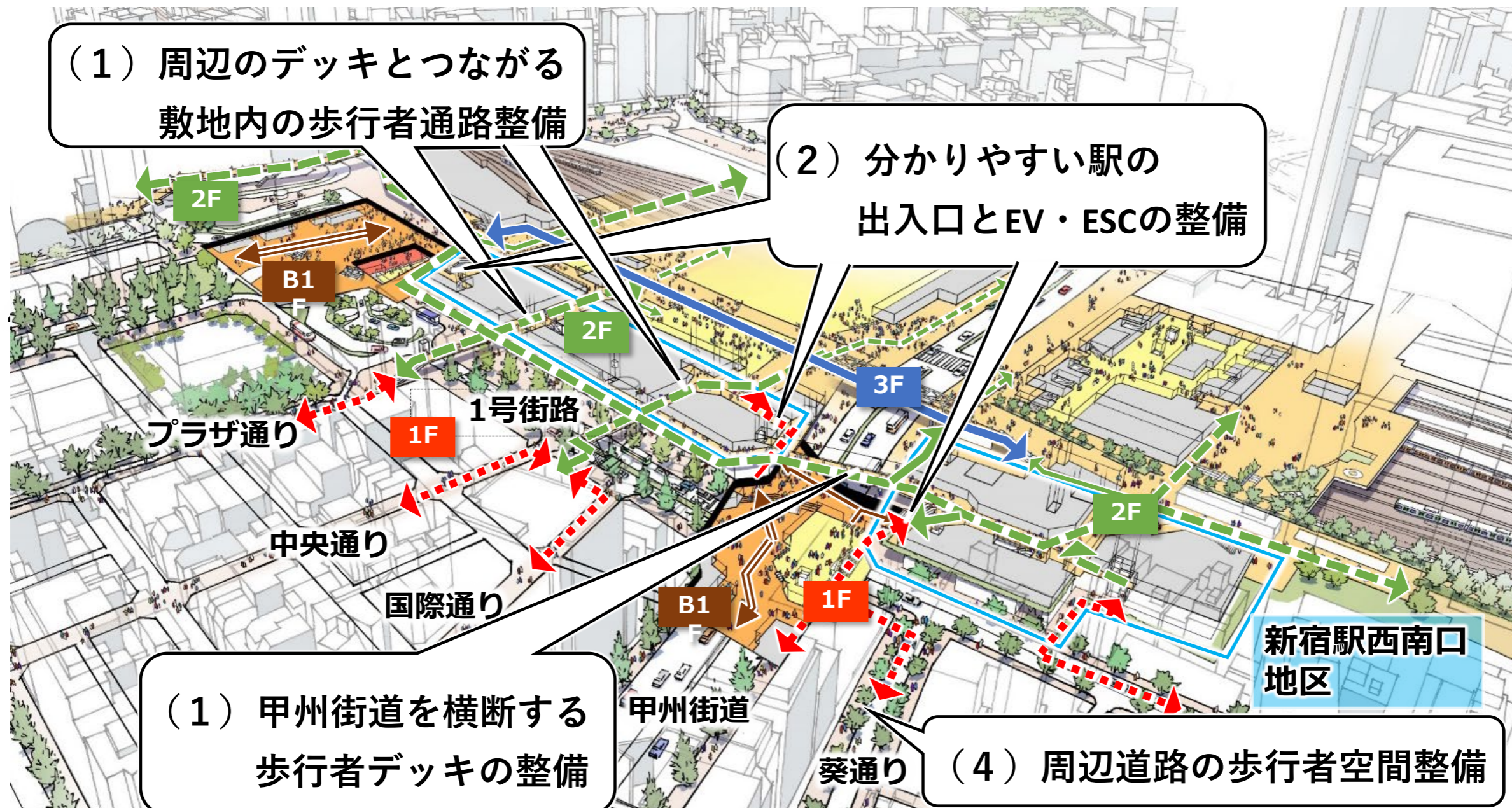
多くの路線に関するサインがあるが視認しづらい

解決策例

- 課題① ▶ (1) 駅と周辺のまちを接続する分かりやすい動線整備
- 課題② ▶ (2) 誰もが分かりやすい出入口とバリアフリー動線整備
- 課題③ ▶ (3) 安心して待合や休憩可能な駅前の空間の拡充
- 課題④ ▶ (4) 歩きやすい周辺の歩行空間整備
- 課題⑤ ▶ (5) 災害時の避難場所確保と分かりやすい避難誘導
- 課題⑥⑦ ▶ (6) 利用しやすい施設（トイレや授乳室）やサイン

施設の骨格について今回提案

今後の詳細な設計で施設やサイン・手すり・誘導ブロック等継続検討の内容



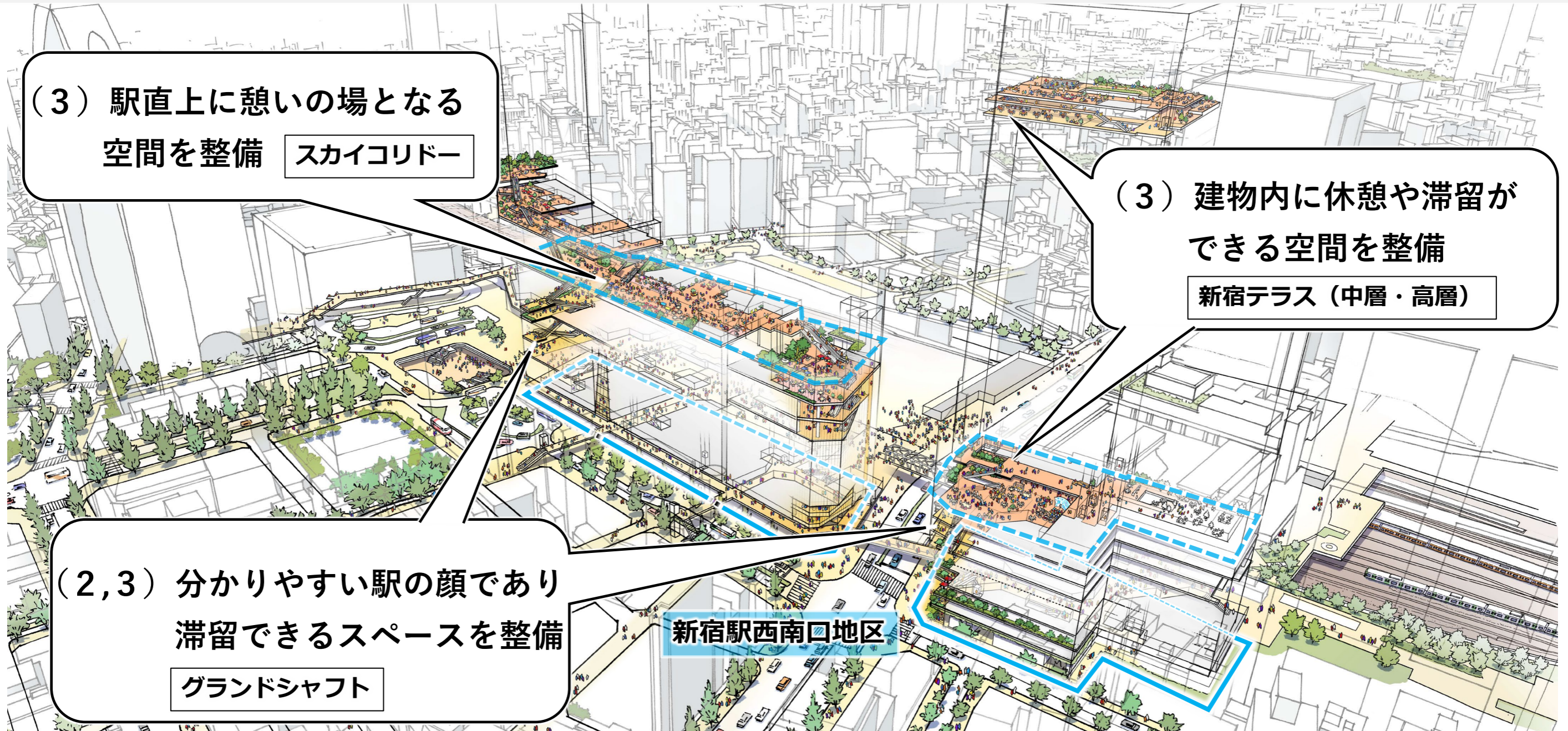
※歩行者ネットワークイメージ

解決策例

- 課題① ▶ (1) 駅と周辺のまちを接続する分かりやすい動線整備
- 課題② ▶ (2) 誰もが分かりやすい出入口とバリアフリー動線整備
- 課題③ ▶ (3) 安心して待合や休憩可能な駅前の空間の拡充
- 課題④ ▶ (4) 歩きやすい周辺の歩行空間整備
- 課題⑤ ▶ (5) 災害時の避難場所確保と分かりやすい避難誘導
- 課題⑥⑦ ▶ (6) 利用しやすい施設（トイレや授乳室）やサイン

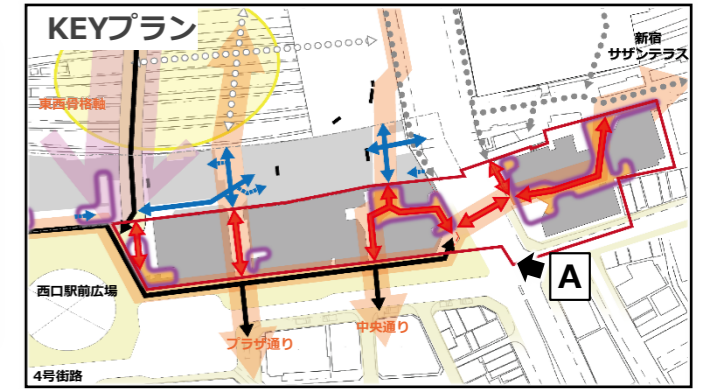
施設の骨格について今回提案

今後の詳細な設計で施設やサイン・手すり・誘導ブロック等継続検討の内容



解決策例 (1)

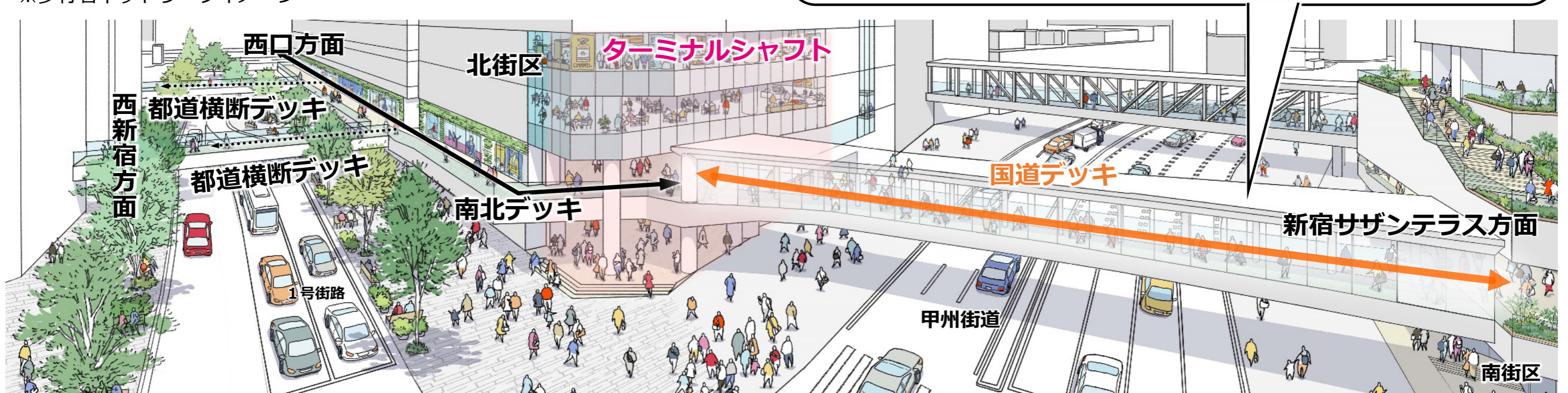
駅と周辺のまちを接続する分かりやすい動線整備



※歩行者ネットワークイメージ

(1) 周辺事業と連携した歩行者の通路整備することで、歩行者だけでなく車いす利用者等も駅とまちをスムーズに行き来できるよう配慮

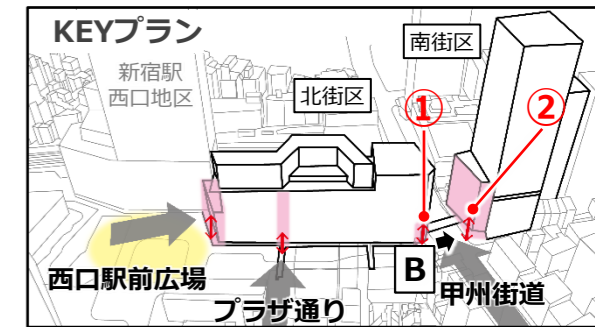
(1) 自動車と分離し、デッキレベルで安全に都道や甲州街道を横断



西新宿一丁目交差点から見た国道デッキのイメージ (視点A)

解決策例 (2)

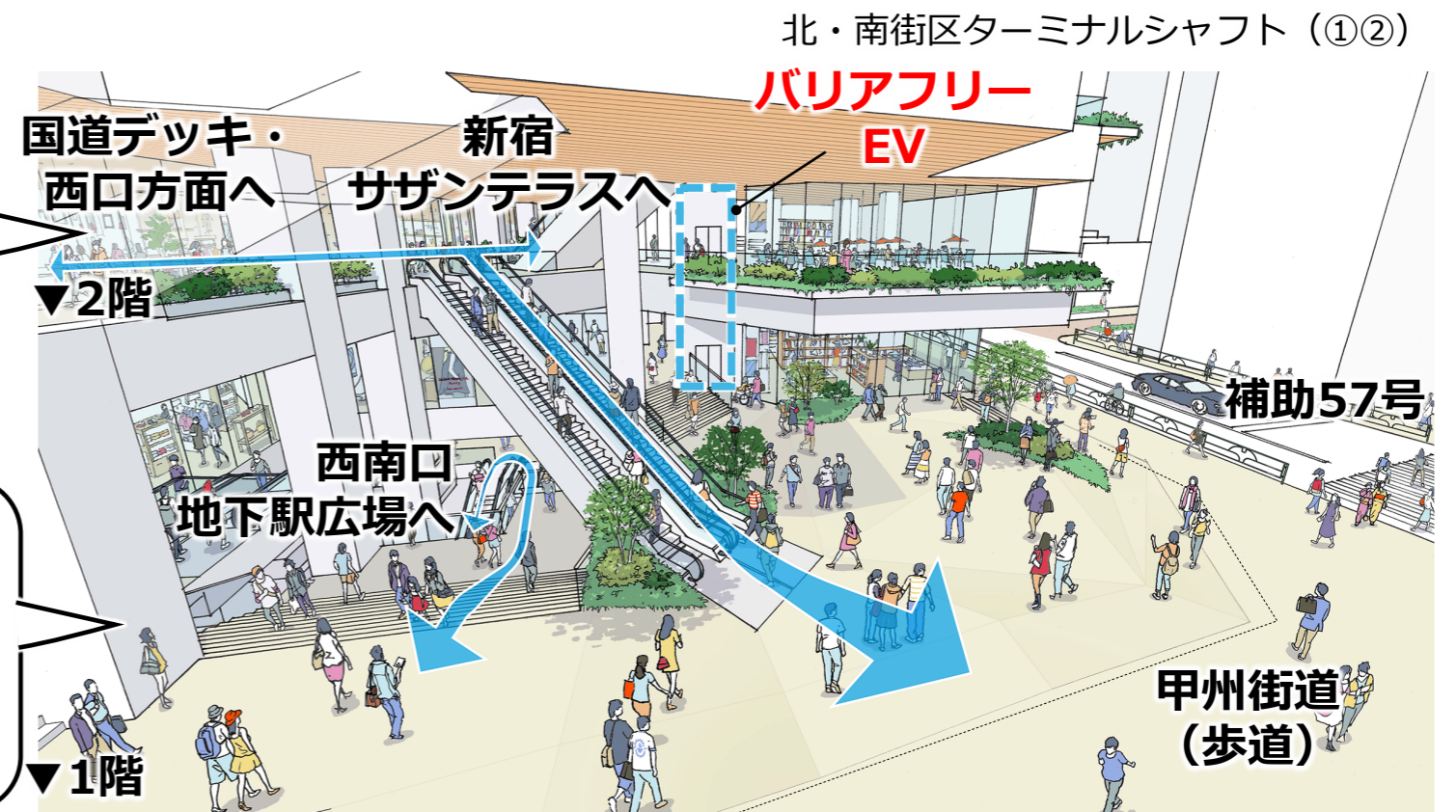
誰もが分かりやすい出入口とバリアフリー動線整備
(西口駅前広場や甲州街道等)



(2) 甲州街道等から視認性の高い位置に出入口を設けることで、初めて訪れる観光客や外国人の方も直感的に駅へのアクセスがしやすくなるよう配慮。

(2) 視覚障がい者の方をはじめ様々な方にとって使いやすい施設となるよう、詳細施策を今後検討予定

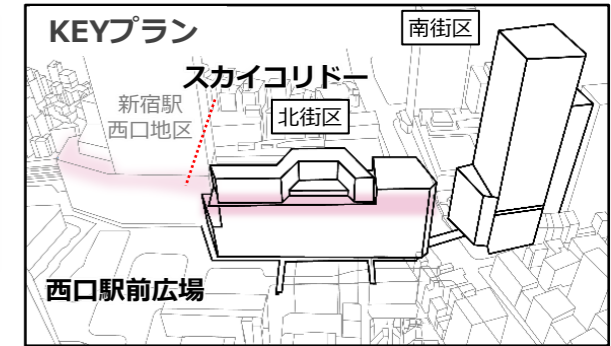
(2) 出入口にEV・ESC等を整備することで、高齢者・妊婦・車いす利用者等もスムーズに上下階の移動ができるよう配慮。 高低差のある甲州街道の移動円滑化にも寄与



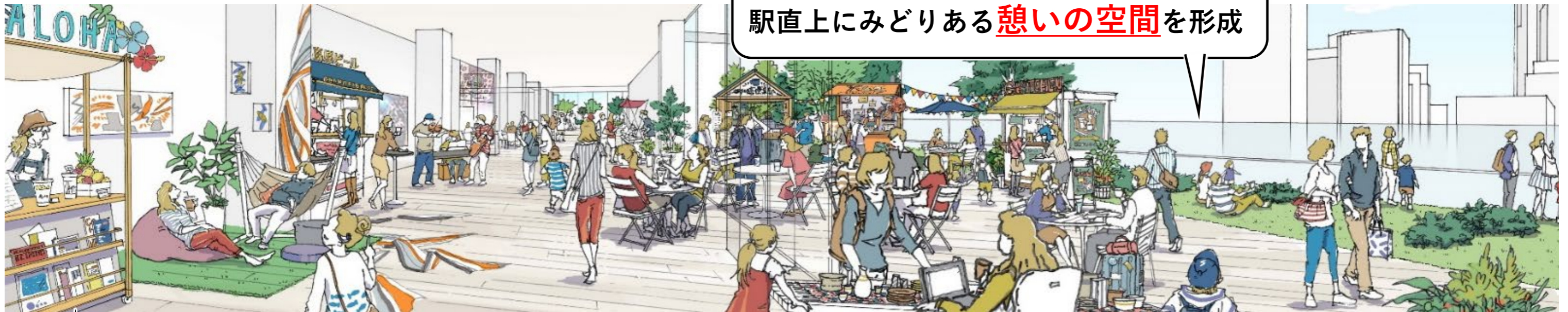
西新宿一丁目交差点に面する南街区ターミナルシャフトのイメージ (視点B)

解決策例 (3)

安心して待合や休憩可能な駅前空間の拡充



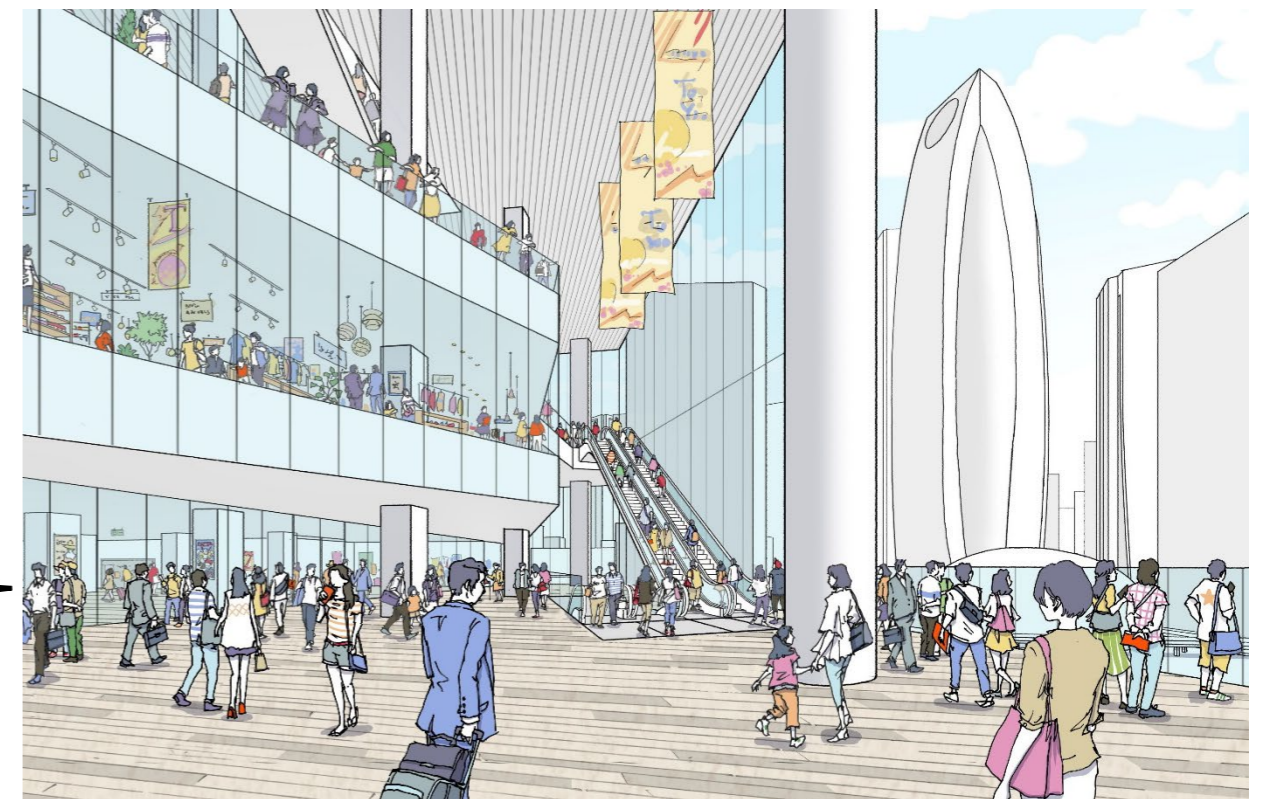
(3) 駅直上にみどりある憩いの空間を形成



屋内外が一体的につながるスカイコリドーのイメージ

(3) 屋内外の自由に往来できる広場空間を一体的に整備することで、休憩スペースを必要とする高齢者・障がい者・妊娠中の方・子連れの方等に配慮

(3) 駅の顔でありまちからも視認性が高く、開放感のある広場空間を設け、休憩や滞留できるスペースを整備



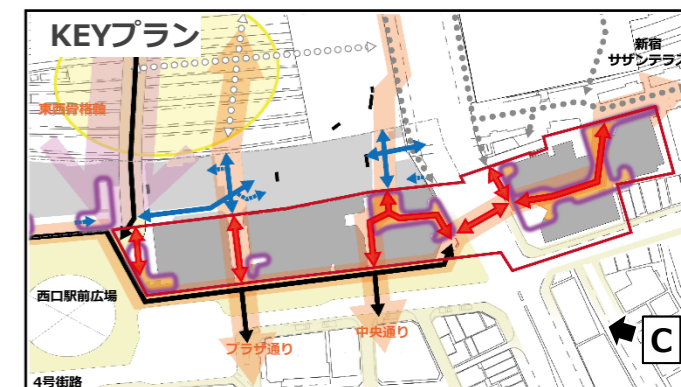
グランドシャフトの空間イメージ

解決策例（4）

歩きやすい周辺の歩行空間整備

解決策例（5）

災害時の避難場所確保と分かりやすい避難誘導



葵通り将来イメージ（視点C）

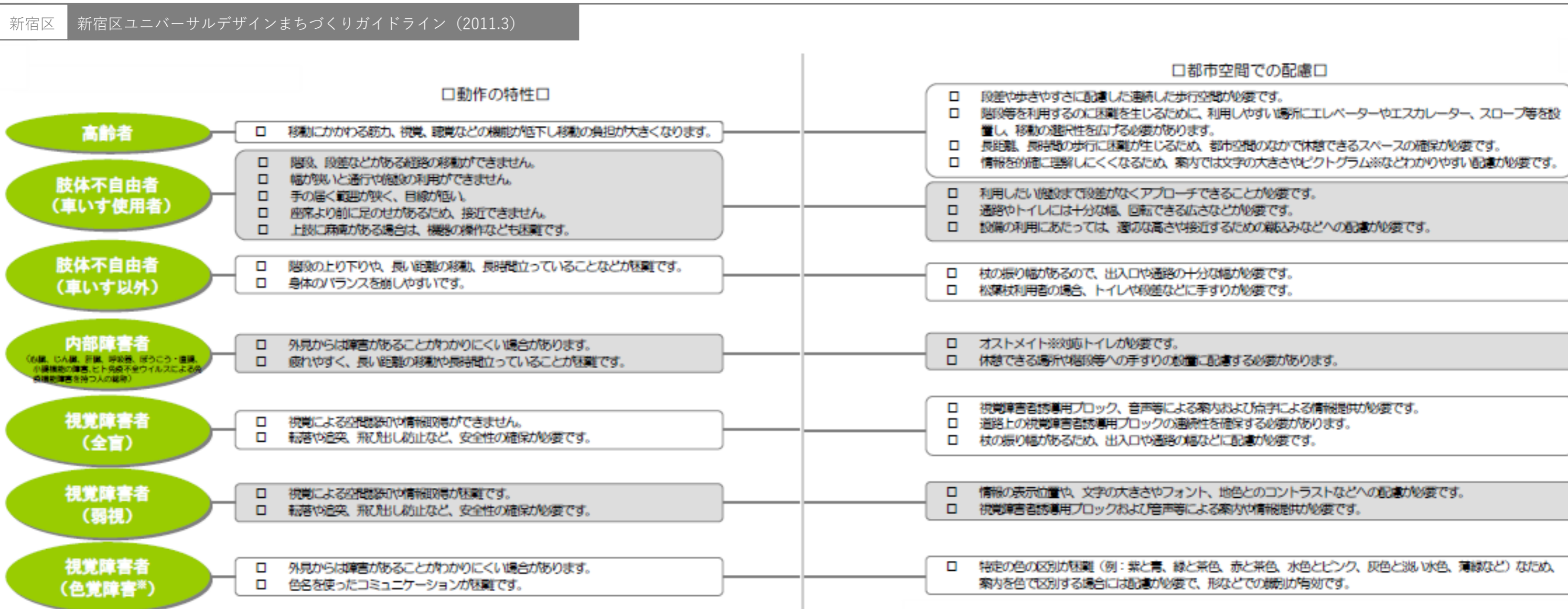
(4)
葵通りにおいて電線類地
中化及び表層等を整備し、
**歩きやすい周辺の道
路整備**を推進

(5)
利用至便な低層階と、落ち着いた環境が確保可能な高層階双方に**一時滞在施設を確保**。
また、**デジタルサイネージ等を活用**した災害情報や各種交通機関運行情報を発信し、
外国人観光客や障がい者等の避難を誘導。その他、施設内は緊急時も円滑な避難
経路としても利用できるよう整備



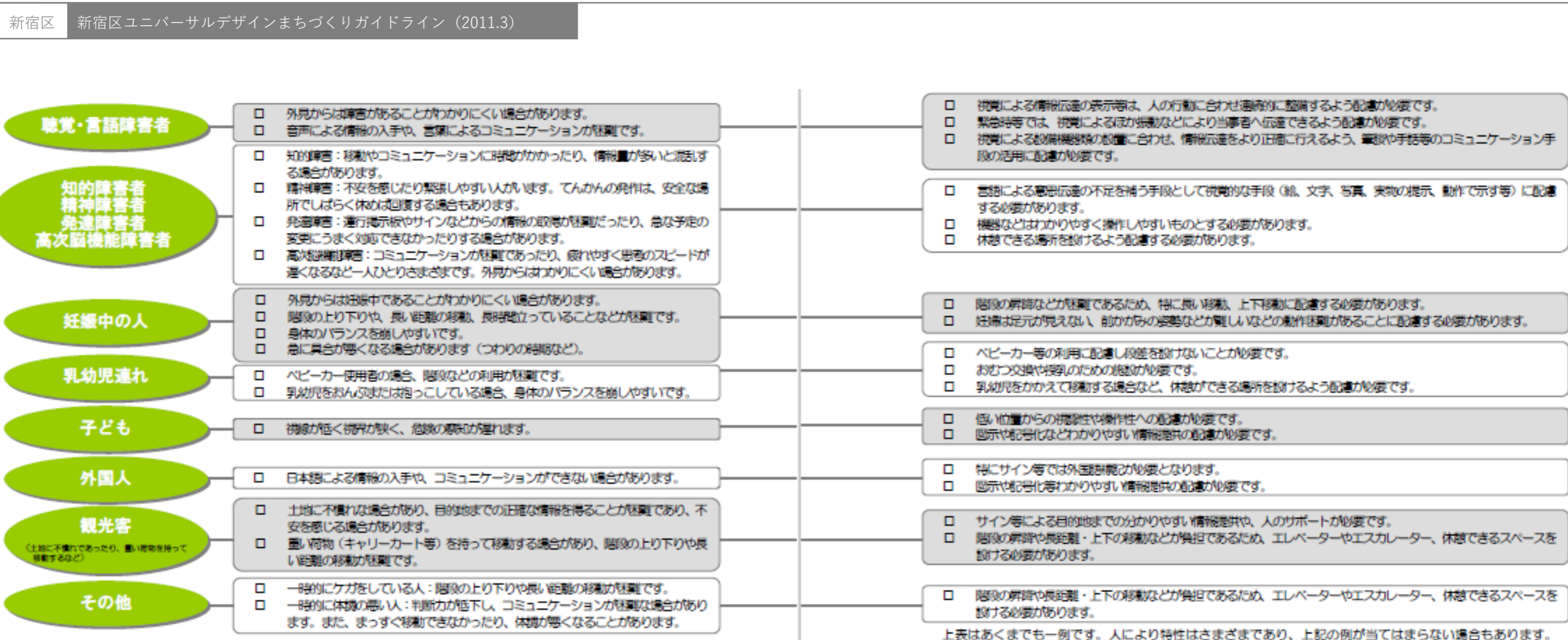
新宿区の「ひと」の多様性（新宿区ユニバーサルデザインまちづくりガイドラインより）

○ 多様な人の特性を踏まえた都市空間における配慮が求められている。



新宿区の「ひと」の多様性（新宿区ユニバーサルデザインまちづくりガイドラインより）

○ 多様な人の特性を踏まえた都市空間における配慮が求められている。



05.参考資料（上位計画）

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

東京都 新宿区 新宿の拠点再整備方針～新宿グランドターミナルの一体的な再編～（2018.3）

新宿グランドターミナル：

東西骨格軸…… グランドターミナルを介して東西のまちとみどりをつなぐ、賑わいの連続やゆとりとみどりのある歩行者中心の空間
 ターミナル軸…… グランドターミナルを一体化し、まちとつなぐ歩行者空間

グランドターミナルの再編イメージ



6 グランドターミナルの再整備方針

交流
軸の構築

方針 1 グランドターミナルとまちを「東西骨格軸」でつなぐ
 I. 東西のまちをつなぐデッキを線路上空に新設
 II. 東西骨格軸となる道路を歩行者優先の空間に再編

方針 2 グランドターミナルを一体化して整える
 I. グランドターミナルを一体化するターミナル軸を構築し、まちとつなぐ
 II. グランドターミナルの人の流れを整える
 III. わかりやすく人に優しいグランドターミナルに整える

方針 3 人中心の広場とまちに変える
 I. 歩行者優先の駅前広場に再構成
 II. グランドターミナルへの車両流入を抑制

連携
空間の創出

方針 4 グランドターミナルの顔となるプラザ・テラスを整備する
 I. グランドターミナルのシンボルとなる新宿セントラルプラザの整備
 II. デッキから地下までを結ぶ新宿テラス（East・West・North）の整備
 III. 新宿テラスからまちの各所に視線が抜ける空間（新宿View）を確保

方針 5 グランドターミナルに新たな機能を誘導・導入する空間を創出する
 I. 新宿セントラルプラザに公益的な活動交流空間（新宿ラボ）を創出
 II. 新宿テラスに鉄道沿線の多様な機能を融合する空間（地域連携ラボ）を創出
 III. グランドターミナルに訪れる人々が触れ合えるショールーム空間を創出
 IV. 安心して過ごせる空間の確保

方針 6 グランドターミナルの各所に人が佇みたくなる空間とみどりを創る
 I. 駅がわかるエントランスの創出
 II. 交流軸やエントランスに沿って連携空間を創出
 III. 新宿中央公園と新宿御苑を結びつけるみどりの塊をグランドターミナルの各所に創出

持続的な発展への
挑戦

方針 7 新宿のレガシーを継承しながら、新たな景観を生み出す
 I. 西口立体広場のポイド等を継承・発展し、グランドターミナルからまち全体に展開
 II. 新宿セントラルプラザや駅前広場に面して、交流・連携・挑戦を感じさせる設えを用意
 III. 遠方から視認できる、新宿らしいスカイラインの形成

方針 8 誰もがチャレンジできる環境を用意する
 I. 訪れる人々に多様な活動やサービスを提供するラボ機能の導入
 II. オールラウンドに発信を行える多様性を持ったショールーム機能の導入
 III. 消費者と直接結び付き、新たな価値を生み出すイノベーション機能の強化
 IV. 人々を新宿に集め続け新たな発信が行われる、国際競争力強化に資する機能の導入
 V. チャレンジャーを生み出し続ける環境づくり

方針 9 次世代の技術導入の可能性に果敢に挑戦する
 I. 次世代モビリティシステムへの対応
 II. エネルギー・地域制御への対応（エネルギーの多様な面的利用の拡大・連携強化と計画的更新）
 III. 新技術を活用した災害時の対応

方針 10 新宿全体の挑戦に結び付ける
 I. グランドターミナル周辺の段階的な機能更新につなげる
 II. 新宿全体の価値向上につながる、持続可能なエリアマネジメントの推進

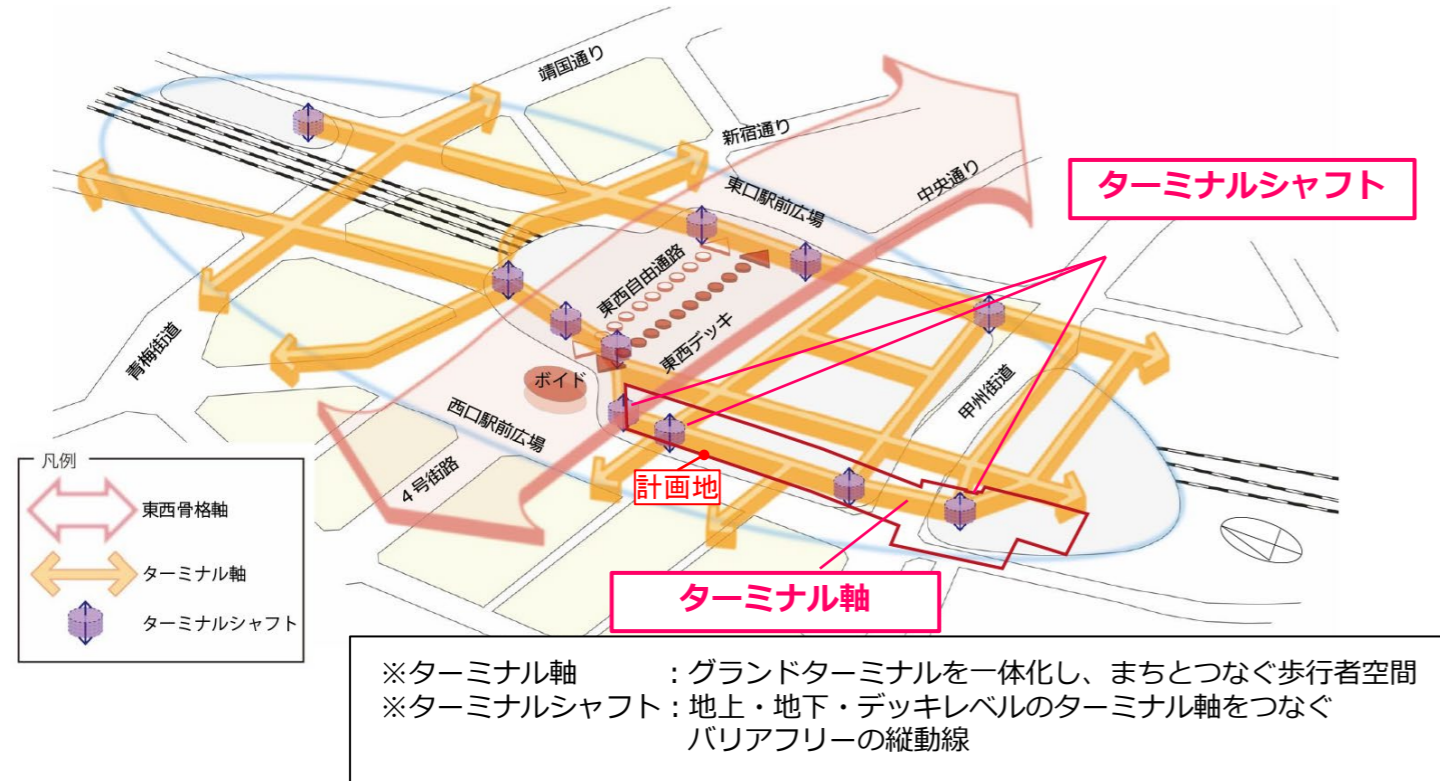
05.参考資料（上位計画）

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

拠点再整備委員会 新宿グランドターミナル・デザインポリシー2021（2021.11）

グランドターミナルをまちと結びつけ、交流を生む歩行者中心のネットワーク

- ・ 駅とまち、まちとまちをつなぐターミナル軸を整備
- ・ 地上、地下、デッキレベルのターミナル軸をつなぐターミナルシャフトを整備



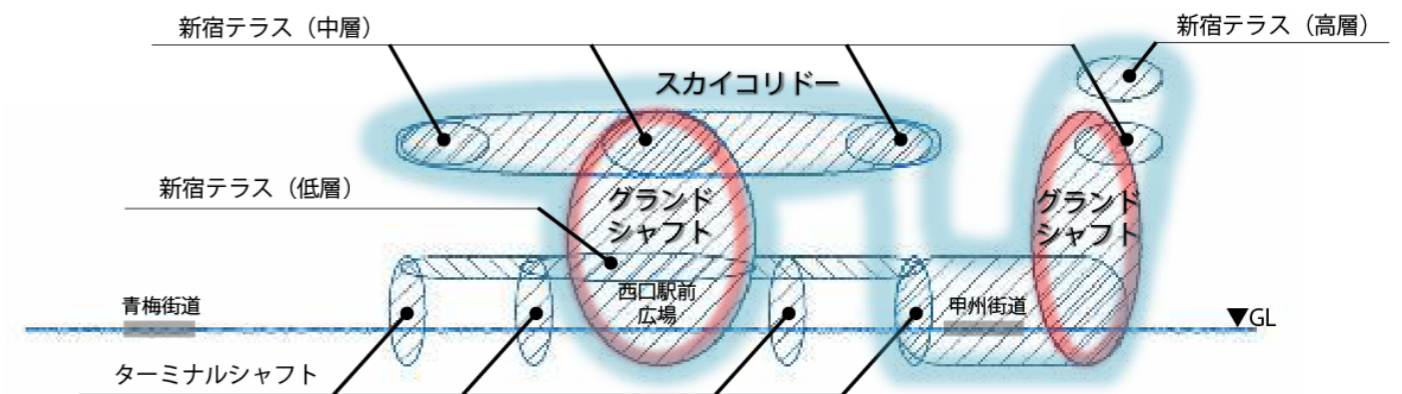
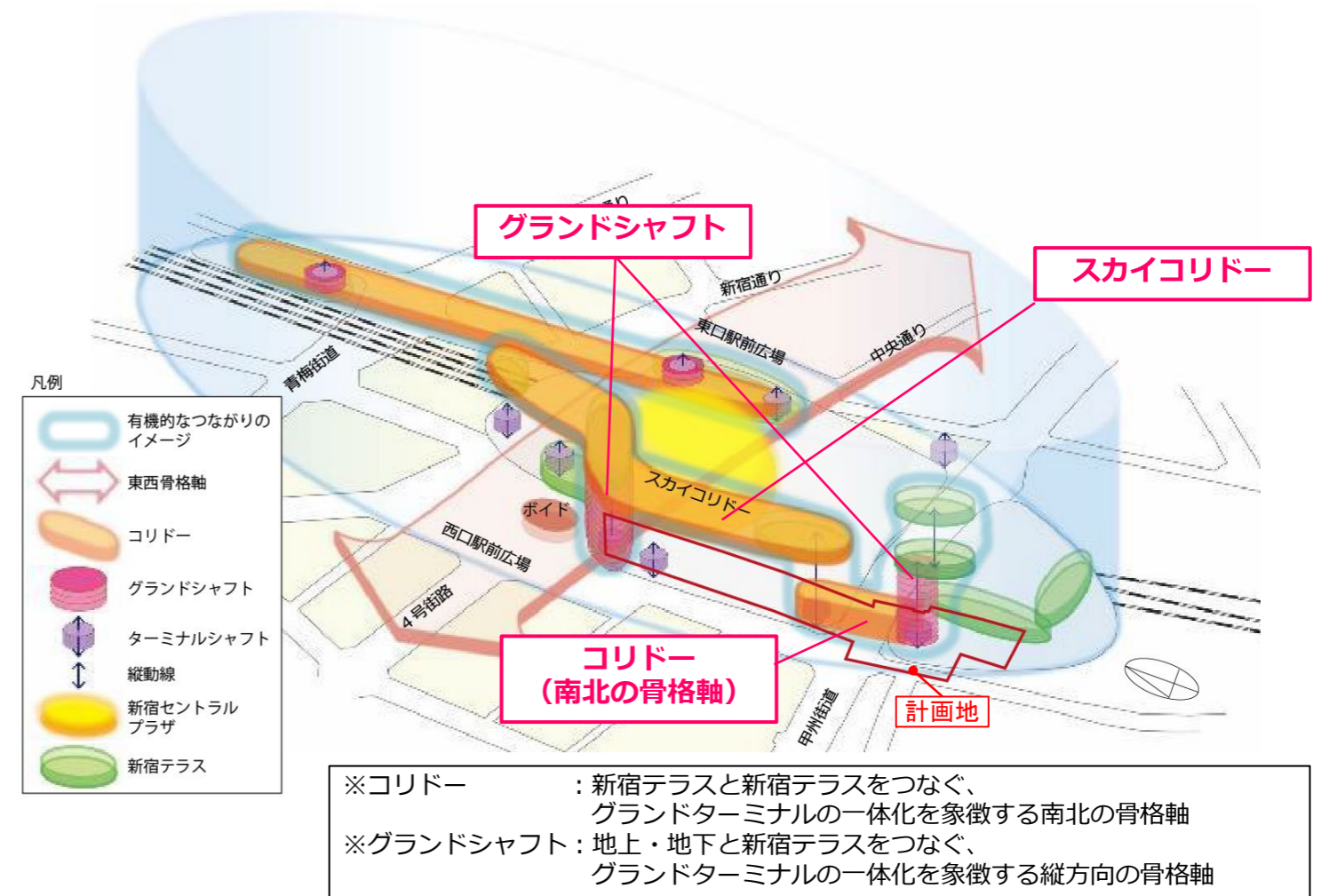
新たなビジネス・文化・技術等の連携や多様なまちとの連携を促し、賑わいを生む空間

- ・ グランドターミナルの顔となる新宿テラスをセントラルプラザを囲むように整備
- ・ 人の動きが立体的に感じられ、周辺から駅の位置が視認できるエントランスを整備



新たな挑戦を絶えず生み出し、新宿全体の挑戦につなげる

- ・ 新宿テラスを相互につなぐコリドーを整備
- ・ まちと新宿テラスをつなぐグランドシャフトを整備



西から新宿グランドターミナルを見たイメージ

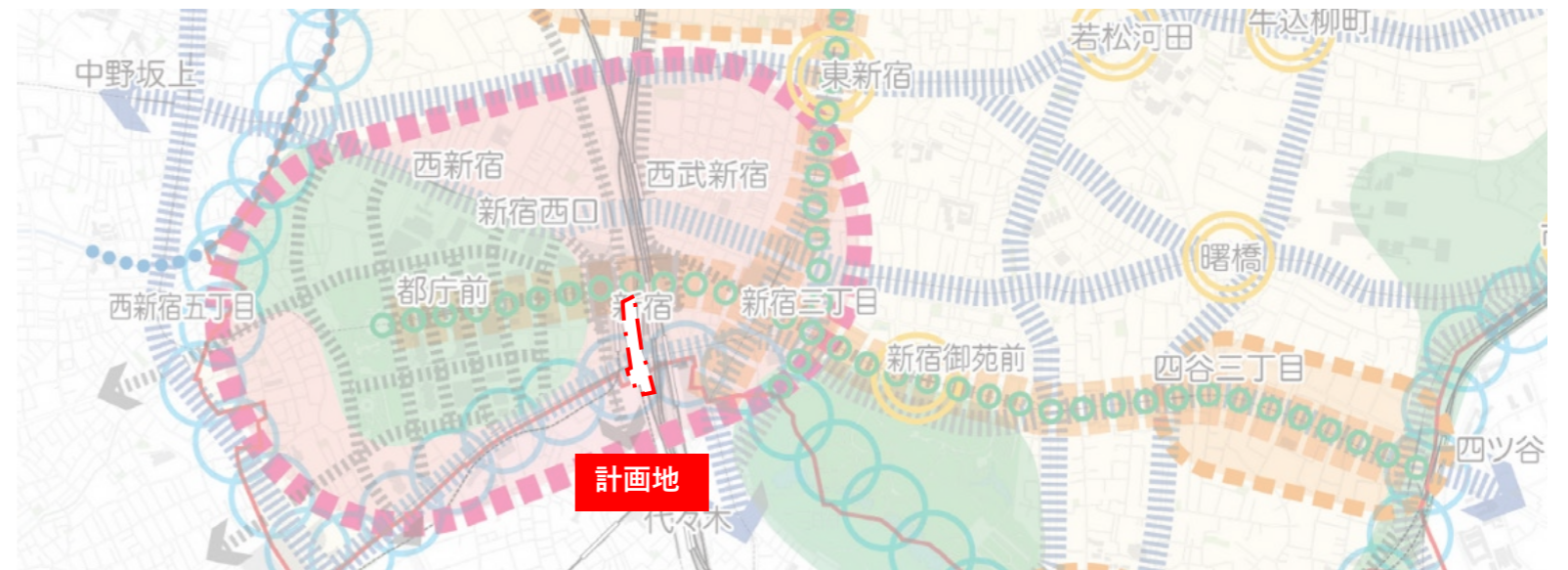
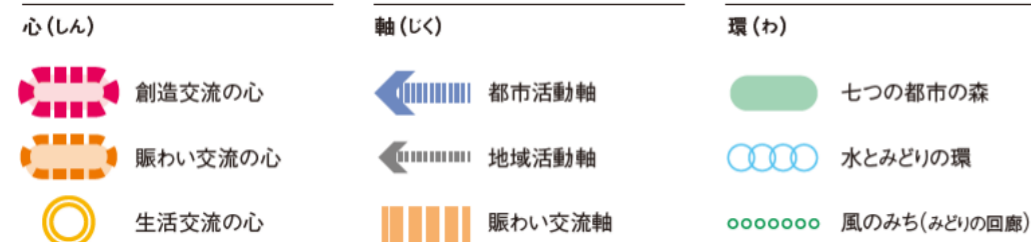
05.参考資料（上位計画）

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

新宿区 新宿区都市マスタープラン（2017.12）

【将来の都市構造】

賑わいと交流を先導する地区を「心（しん）」
 高い都市活動を支える幹線道路やその沿道を「軸（じく）」
 都市に潤いを与える水辺やみどりのつながりを「環（わ）」



【新宿駅周辺地域まちづくり方針】

地域の将来像：「人を魅せる活力と文化の薫りあふれる環わのまち」

- 生活・文化・商業・遊びの空間を「輪」状につなげ、人波がしなやかに流れるようにするとともに、人と人がふれあい「和」みあるまち、環境に配慮した「環」境にやさしいまちをめざします。

都市の骨格に関するまちづくり方針：

① 新宿駅周辺【創造交流の心】

- 駅周辺の業務商業機能を東西方向にさらに広げるため、都市基盤の整備を推進します。
- 賑わいと活力の創出に向け、みどりや歩行者空間の充実、歩いて楽しい環境の整備を進めるとともに、防災性の向上及び災害時の避難誘導体制等の強化を進めます。
- 新宿駅周辺から他の「賑わい交流地区」への歩行者の回遊性と利便性を高めます。

② 新宿通り・中央通り【賑わい交流軸】

- 訪日外国人等の増加を踏まえ、道路空間の賑わいづくりとともに、防災性の向上を図ります。
- 魅力ある業務商業施設の立地を誘導していくとともに、快適な歩行者空間や景観を創出し、歩きたくなるまちづくりを推進します。

⑤ 新宿通り、中央通り【風のみち（みどりの回廊）】

- 新宿通りと中央通りを「風のみち（みどりの回廊）」と位置づけ、道路空間における街路樹の育成や沿道建築物の緑化などを進め、地区の特性を踏まえたみどり豊かな都市空間を形成します。また、東口地区と西口地区をつなぐみどりの創出を図ります。

地域のまちづくり方針：

2.道路・交通

② 新宿駅及び駅周辺や幹線道路における、歩行者の回遊性の充実を図ります。

- 新宿駅の東西自由通路の整備を促進するとともに、新宿駅東西広場及び駅周辺の再整備の検討（歩行者優先の広場への再編や東西をつなぐ空間の確保など）を進め、快適な歩行者空間の充実と回遊性の向上をめざします。
- 新宿駅東口、西口、南口の駅前空間を充実させ、歩行者広場やゆとり空間を創出するとともに、それぞれを結ぶ歩行者回遊動線の充実を図り、駅周辺の利便性を高めます。
- 新宿駅周辺の回遊性の向上を図るため、靖国通り地下通路、西口のペDESTリアンデッキ等の整備を促進します。

⑤ 荷捌き車両の効率的な運用や荷捌き場の整備を進めます。

- 環境負荷軽減や歩行者の環境改善のため、共同配送や荷捌き車両の共同駐車場の整備等について検討します。

⑥ 駐車場の地域ルールに基づく誘導を進めます。

- 地域特性に応じた、駐車場附置義務のルールに基づく設置を誘導します。

3.安全・安心まちづくり

② 災害時の避難誘導施設や体制を強化します。

- 大規模な地震等の災害発生時には、多数の滞留者、帰宅困難者の発生が想定されるため、新宿御苑や新宿駅及びその周辺において、支援施設の整備を促進します。
- わかりやすい災害時避難誘導案内板等の整備を進めます。あわせて、昼間区民の適切な避難誘導を行えるしくみ・体制を強化します。

【誰もが豊かに暮らせるまちづくりの方針】

ユニバーサルデザインまちづくり

① 都市空間の整備や改善

- 道路や駅前広場、地下歩行者通路のバリアフリー化を進めます。
- 多言語の公共サイン・案内板、音声案内等の整備など、訪日外国人をはじめとする来街者にとってわかりやすい都市空間の整備や改善を図ります。
- まちかど広場、休憩ベンチ、緑陰空間などを設け、健康的で快適に過ごせる歩行者空間の整備を進めます。

② 公共施設等の整備

- 不特定多数の利用のある鉄道駅舎や公園、官公庁施設、保健・福祉施設、医療機関、金融機関、文化・スポーツ施設、商業施設、学校などは、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた整備や改善を誘導します。
- 施設の出入口の段差の解消や、誰でも利用できるトイレ等の整備を促進します。

④ 多様な主体との協働

- 道路、駅舎等の公共施設の整備にあたっては、バリアフリー化などユニバーサルデザインの視点を踏まえて、関係機関と協働を進めていきます。
- バリアフリー化のための設備等の整備への支援について検討します。
- 新宿駅では、多様な関係者が連携して取り組んでいる新宿ターミナル協議会にて、利便性向上のための施設整備等を進めていきます。なお、この取組みの検討成果を、区内各所で進められているまちづくりにも活かしていきます。

05.参考資料（上位計画）

※計画内容は、今後の詳細検討および関係機関等協議により変更される場合があります。

新宿区 新宿区ユニバーサルデザインまちづくりガイドライン（2011.3）

【基本目標1 誰もが自由に歩ける都市空間づくり】

取組1：駅周辺での移動の連続性を確保し、自由に歩けるようにする

- ・利用者のさまざまな特性に配慮した、自由に移動できる歩行者ネットワークの充実

取組2：さまざまな歩行者のために十分な空間を確保し、ゆったりと歩けるようにする

- ・自動車交通を抑制し、さまざまな人々がゆったり歩ける歩行空間の確保
- ・沿道の建築物との連携による、ゆとりある歩行空間の確保
- ・放置自転車や地下道出入口など歩道を狭める要因を取り除く工夫による、ゆとりとした歩行空間の確保
- ・工事中においてもさまざまな人々が安全に通行できる歩行空間の確保

取組3：上下階の移動や地下街などの立体的な都市空間の移動を、負担が少なくスムーズにできるようにする

- ・さまざまな人々が自由に歩ける地下街や地下通路のネットワークの形成
- ・地下道や駅前の地下空間と民間施設の連携による歩行動線の連続性の確保
- ・民間施設との連携により、さまざまな利用者特性に対応した移動手段の確保

取組4：道路から建築物などに不自由なく入れるようにする

- ・さまざまな人々が無理なく建築物に入れるように、建築物のアプローチのスムーズ化
- ・視覚障害者誘導用ブロックの連続性の確保

取組5：自動車による交通負荷を軽減し、さまざまな人々が安全に歩けるようにする

- ・駅周辺の交通量の抑制と適切な駐車場の利用による、さまざまな人々が安全に歩ける歩行空間の確保
- ・荷さばきスペースの確保と適切な配置による、さまざまな人々が安全に歩ける歩行空間の確保

【基本目標2 誰もが快適に過ごせる都市空間づくり】

取組6：まちを美しく保ち、みどり豊かで快適に利用できる空間を形成する

- ・まちのみどりを増やして、さまざまな人々が気持ちよく歩ける空間の創出

取組7：さまざまな人々に配慮した快適な歩行空間を確保する

- ・道路のモール化などによる車道の歩行空間への誘導

取組8：さまざまな人々に配慮した快適な歩行空間を確保する

- ・さまざまな人々が、待ち合せや休憩などで快適に過ごせる駅前広場空間の創出
- ・待ち合せや休憩する人と移動する人の錯綜を軽減する滞留スペースと移動経路との分離

【基本目標3 誰もが安心できる都市空間づくり】

取組9：都市空間を活用・改善して、まちの防災力を高める

- ・民間施設の協力による災害時の機能向上
- ・地下街等における避難路の確保や避難誘導時の情報提供の充実

取組11：公共施設と民間施設の連携により、まちを歩くことの安心感を高める

- ・さまざまな人々が安心して外出できるよう、まちのなかでの「だれでもトイレ」や授乳施設の充実
- ・さまざまな人々が利用しやすい、トイレの配置や案内
- ・民間の協力を得て、トイレやエレベーター等の利用を可能とし、まちを歩く安心感と利便性を向上

取組13：歴史や文化、個性など、まちの魅力に容易にアクセスできる配慮をする

- ・さまざまな人々がまちの魅力に容易にアクセスできるための、歩行空間や施設アクセスのバリアフリー化
- ・まちを歩く楽しさや安心感を高める情報提供の充実

【基本目標4 誰もが楽しめる都市空間づくり】

取組14：道路や広場などの公共的な空間を活用して、さまざまな人々の交流を創出する

- ・多くの人が訪れる大規模建築物周辺のオープンスペースを、交流空間として積極的に活用

【基本目標5 誰にでもわかりやすい都市空間づくり】

取組15：新宿のまちをわかりやすく伝える情報提供を行う

- ・案内板の設置場所や情報の表現の仕方を工夫し、慣れない人にもわかりやすい案内を充実
- ・地下街や道路上で、災害時の避難場所や避難経路などの情報の充実
- ・サインの適切な維持管理による、まちの情報へのアクセスの確保

取組16：利用者のさまざまな特性に配慮して、わかりやすい情報提供を行う

- ・高齢者や障害者にわかりやすい情報提供
- ・子ども連れの人々が安心して外出できる情報提供
- ・外国人がまちを楽しめる情報提供

渋谷区 渋谷区まちづくりマスタープラン（2019.12）

【渋谷区が目指す将来像とまちづくりのアプローチ】

- A 多様なライフスタイルを実現する生活環境の創出
- B 人々がいきいきと過ごせるパブリックスペースの創出
- C 環境問題や災害リスクに対応するみどりや仕組みの構築
- D 多様な文化や新しいビジネスを生み育てる舞台づくり

【分野別まちづくりの方針】

方針1 土地利用・市街地整備

市街地整備方針（新宿駅周辺）

- ・複合的な都市機能の集積と、周辺住機能との調和を前提とした土地の高度利用を推進します。駅からまちへつながる歩行者ネットワークの整備により、ターミナル駅前にふさわしい交通結節機能の強化を進めます。

方針2 安全で快適な交通環境創出

人が中心の道路空間づくり

- ・災害時の安全性を高め、通行しやすい都市空間を形成するため、今後整備する都市計画道路や大規模開発に合わせ、無電柱化の整備を推進します。

公共交通ネットワークの強化

- ・鉄道駅の交通結節機能を強化するために鉄道事業者による駅舎・駅前広場等の整備に際し、バリアフリーの実現、乗り継ぎの利便性の向上、混雑解消等を誘導します。
- ・特に渋谷駅などのターミナル駅においては、開発の機運の高まり等による将来的な利用需要の増加を見据え、更なる駅空間の量的な拡充により利便性・安全性の向上を図るとともに、駅空間の質的な拡充も目指していきます。

誰もが快適に移動できる手段の強化

- ・誰もが安全・安心・快適に移動ができるよう、駅周辺での移動の連続性を確保したり、地上と地下空間の移動がスムーズに行えるようにしたり、歩行空間における段差、勾配等の解消や、分かりやすい案内表示等、ユニバーサルデザインの視点に立った交通まちづくりを推進します。

外国人等多様な来街者にも分かりやすい標識（サイン）の環境整備

- ・外国人等の多様な来街者にもわかりやすい標識（サイン）等を設置することにより、駅周辺等の回遊性の向上を図ります。

方針3 生活しやすいまちづくり

ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

- ・高齢者や障がい者が安全に暮らすことができるように、既存の公共施設では必要なバリアフリー化を行うとともに、新たな施設配置についてはユニバーサルデザインに配慮した施設配置をしていきます。
- ・高齢者や障がい者、妊産婦、けが人等、あらゆる人々が自由に安心して外出できるまちとしていくため、多くの人に利用される施設のバリアフリー化を推進します。
- ・公園や公共施設等におけるトイレの整備、まちや建物内の案内情報のユニバーサルデザイン化を進めます。

方針4 都市防災の方針

災害時の都市機能のマネジメント

- ・高齢者や障がいのある人などのための避難手段の確保と避難所の充実を検討するとともに、備蓄や電源の確保など医療的ケアを必要とする人の支援体制のあり方を検討します。

帰宅困難者対策の推進

- ・災害時に帰宅困難者を円滑に誘導するため、大規模建築物の設置者や事業者と連携し、帰宅困難者受入施設の拡充を図ります。
- ・防災ポータルサイトや駅前街頭ビジョンなどのICTの活用や幹線道路沿道への屋外掲示型マップの設置などにより、帰宅困難者が必要とする被災状況、公共交通の運行状況、帰宅困難者支援（受入）施設の状況などの情報をリアルタイムで提供し地域の混乱を防ぎます。

【地域のまちづくりの方針（新宿駅周辺）】

- ・複合的な都市機能の集積と、周辺住機能との調和を前提とした土地の高度利用を推進します。
- ・駅からまちへつながる歩行者ネットワークの整備により、ターミナル駅前にふさわしい交通結節機能の強化を進めます。

